早 稲 田 大 学

産 業 経 営 研 究 所

所　　報

Ｎｏ．６２

Research Institute of Business Administration,

Waseda University

２０２２年度

目　　次

1. 研究分科会

１）研究分科会一覧 …… 1

２）２０２２年度設置　分科会　研究報告 …… 6

2. 事業活動 …… 40

3. 役職者・運営委員・助手 …… 50

4. 商学学術院・産業経営研究所構成図 …… 51

5. 『産業経営』投稿規定・執筆要領 …… 53

6. 第 45 回産研フォーラムパンフレット

１．研究分科会

１）研究分科会一覧

2022 年度設置分科会

※印は分科会主任者、△印は２分科会以上参加者

☆印は兼任研究員、◎印は招聘研究員、○印は研究協力員

整理番号	テーマ・構成員	
2022-01	テーマ	広告とマーケティングにおける価値創造への多面的アプローチ Multifaceted Approaches to Value Creation in Advertising and Marketing
	☆	※嶋村　和恵　　恩藏　直人　　劉　　玉婷 守口　　剛　　ﾌﾗﾝｸ・ﾋﾞｮｰﾝ　　河股　久司 須永　　努
	◎	秋本　昌士　　石崎　　徹　　石田　大典 大平　　進　　田部　渓哉　　芳賀　康浩 朴　　正洙　　広瀬　盛一　　八ッ橋治郎 峯尾　　圭
2022-02	テーマ	習近平第 3 期体制下の「一帯一路」構想における異文化接触 Cross-Cultural Conflict in the coming 3rd term of Xi Jinping's "One Belt, One Road" project
	☆	※小川　利康　　荒井　　訓　　尹　　景春 中村みどり　　ﾊﾙヴューレスコ・M・M　矢内　義顯 △李　　洪茂　　國府　久郎　　松川　雄哉 森本　栄晴　　ｸﾗｳｽ　ﾏﾇｴﾙ P
	◎	△井上　葉子　　△今井　利絵　　宇野　和夫 川邉　信雄　　白石　　徹　　△鈴木　岩行 鈴木　　航　　△竹之内玲子　　田代　祐基 櫨山　健介　　原口　　厚　　李　　雪
2022-03	テーマ	技術革新、自然・社会環境の変化が保険ビジネス及び保険制度に与える影響と課題 How the innovation of technology and the change of the natural and social environment affect the business and system of insurance?
	☆	※中出　　哲　　田口　尚志　　△李　　洪茂 星野　明雄
	◎	恩藏　三穂　　△鈴木　岩行　　土田　武史 安井　敏晃　　佐々木博之
	○	邵　　傑　　草野　哲史

2022-04	テーマ	民法・会社法の改正が企業活動に及ぼす影響と法的課題 Recent Reforms of the Civil Code and the Companies Act in Japan and their possible influences on trading and management of business corporations
	☆	※中村　信男　　和田　宗久　　川島いづみ 新井　　剛
	◎	李　　艶紅
2022-05	テーマ	４次元空間内の曲面の研究 Study on Surfaces in 4-spaces
	☆	※安原　　晃　　坂野　慎哉　　辻内　宣博 谷山　公規　　山口　祥司　　渡邊　展也
	◎	相馬　輝彦
2022-06	テーマ	日本・世界のコーポレートガバナンスと金融・労働市場 Corporate Governance and Financial/Labor Markets
	☆	※広田　真一　　△久保　克行　　谷川　寧彦 宮島　英昭　　尾崎　祐介　　宇野　　淳 鈴木　一功　　蟻川　靖浩　　小倉　義明 河村　耕平　　西脇　　貴
	◎	小川　　亮　　岩澤誠一郎　　五島　圭一 外松　陽子　　グエン ティン フォン タン　吉田　賢一
	○	飯野　佳亮　　坪野　航大
2022-07	テーマ	英語による発信力を強化する体系的プログラムの開発（Ⅱ） Development of a Systematic Training Program for Improving Productive Proficiency in English Ⅱ
	☆	※森田　　彰　　浅利　庸子　　エルウッド・ケイト 佐藤　詩恵　　鈴木　利彦　　山田　　茂 篠原　靖明
	◎	小澤　悦夫　　篠田　義明　　神保　尚武 渡辺　洋一　　室谷　章子

2022-08	テーマ	管理会計におけるリスク分担機能の研究 The study on risk sharing functionalities of managerial accounting
	☆	※鈴木　孝則　伊藤　嘉博　大鹿　智基 河　榮徳　長谷川惠一　清水　孝 ダニエル・ドーラン　薄井　彰　清水　信匡 葛山　康典　目時　壮浩　荻原　啓佑
	◎	秋山　盛　阿部　圭司　石塚　博司 稲葉　喜子　内野　里美　海老原　崇 大川内隆朗　庵谷　治男　大塚　宗春 岡田慎太郎　奥本　英樹　金子　良太 神山　直規　河路　武志　古賀健太郎 小林　啓孝　齋藤　正章　佐藤　紘光 須藤　時男　高橋　克幸　辻　正雄 成岡　浩一　西澤　脩　野坂　和夫 花村　信也　潘　健民　福島　隆 堀　好一　前野　譲二　松田　修一 町田　遼太　矢内　一利　渡邊　直人
	○	大西　智之　佐俣　翔平　大塚慎太郎 小澤　圭都　佐々木貴司
2022-09	テーマ	国際ビジネス戦略の新展開：理論と実証分析の最前線 New Developments of International Business Strategies: Frontiers of Theory and Empirical Studies of Multinational Enterprises
	☆	※横田　一彦　谷口　真美　△市田　敏啓 池上　重輔　長谷川信次　エドマン・ジェスパー 小田部正明
	◎	△井上　葉子　今井　雅和　△今井　利絵 江夏　健一　桑名　義晴　佐藤　敦子 佐藤　幸志　清水さゆり　白木　三秀 髙井　透　竹之内秀行　△竹之内玲子 長谷川　礼　林　正　三輪　祥宏 山本　崇雄
	○	リュウ・ジンチェン

2022-10	テーマ	グローバライゼーションと財務会計研究 Globalization and Financial Accounting Research
	☆	※八重倉　孝　奥村　雅史　スズキトモ 山内　暁　秋葉　賢一　大塚　忠義 金子　裕子　川村　義則　菅野　浩勢 関根　愛子　野村　俊一　伏見　俊行 松本　敏史　吉野　真治　山下　和博 持永　勇一
	◎	青山　慶二　安　珠希　飯塚　雄基 池村　恵一　石内　孔治　井手　健二 井出健二郎　海老原　諭　尾畑　裕 片山　覺　加藤　大吾　金子　善行 栗城　綾子　栗原　克文　髙橋　秀至 千代田邦夫　辻山　栄子　遠谷　貴裕 鳥羽　至英　中井　誠治　中嶋　隆一 中田　有祐　長束　航　根岸　亮平 羽根　佳祐　濱田　崇嘉　原　誠 藤木　潤司　藤田　晶子　藻利　衣恵 山﨑　尚　山下　奨　尹　志煌 若林　利明　渡辺　剛　閻　粛
	○	畢　天維
2022-11	テーマ	イノベーション創出のメカニズムについてのマルチレベル分析 Investigating the Mechanisms of Innovation: A Multilevel Perspective
	☆	※山野井順一　井上　達彦　有村　俊秀 坂野　友昭　清水　洋　谷本　寛治 藤田　誠　三橋　平　マレン ジョエル 村瀬　俊朗　梁取　美夫　鬼頭　朋見 キム　テソク
	◎	安部由起子　足代　訓史　△井口　衡 伊藤　泰生　石毛　昭範　宇田　理 大沼　沙樹　大月　博司　小沢　和彦 川崎　千晶　金　倫廷　黄　雅雯 厚東　偉介　小林　俊治　潜道　文子 永山　晋　花岡　幹明　日野　健太 古田　成志　万　涛　山口　善昭 カプツルキェヴィッチ アガタ テレサ
	○	高坂　啓介　鄭　雅方　鳥田　友起 古田　駿輔　吉澤　昭人　矢島　猶雅 鐘　粤　張　涵

2022-12	テーマ	社会経済システムの局所化に関する経済学理論とその応用 Theoretical and Empirical Research on Polarization of Socio-Economic Systems
	☆	※高瀬　浩一　片岡　孝夫　片山　東 △久保　克行　横山　将義　豊泉　洋 伊藤　秀史　大門　毅　朴　相俊 △市田　敏啓　加納　和子　毛利　裕昭 笠島　洋一　鈴木　彩子　相場　大樹 富　蓉　青山　知仁
	◎	赤星　立　△井口　衡　木口　武博 葛目　知秀　齋藤　卓爾　佐々木宏夫 清水　弘幸　杉野　誠　高橋　達 橘　洋介　友原　章典　成川　康男 山口　圭子　横溝えりか　菊地　雄太 原　和弘
	○	金　鑫　野尻　純　平木　良子 蒲生修二郎
2022-13	テーマ	生産性の選択をめぐる労使関係と経済史 The Choice of Production Organizations: Industrial Relations and Economic History
	☆	※花井　俊介　池尾　愛子　小倉　一哉 矢後　和彦
	◎	井上　雄介　高橋　弘幸　安元　稔 柳沢　遊　小杉　亮介

２）２０２２年度設置　分科会　研究報告

（研究期間：2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日）

整理番号　2022-01

研究課題　広告とマーケティングにおける価値創造への多面的アプローチ

研究業績の概要・成果発表等

各自が研究テーマに基づいて論文の執筆、学会発表を行っている。とくに海外の学会での発表が増えてきている。

（1）論文・著書

研究所員名	業績種別（論文・単著・共著・研究ノート等）	発表論文名・著書名　等
☆恩藏直人	論文	外川拓，磯田友里子，鈴木凌，恩藏直人，顧客の名字がブランド選択に及ぼす影響　－視覚情報としての文字に注目して－，マーケティングジャーナル　42(3)，27-38
	論文	Aric Rindfleisch, Nobuyuki Fukawa, Naoto Onzo, Robots in Retail: Rolling out the WHIZ, AMS Review 2022 年 12 月
☆須永　努	共著	久保田進彦，澁谷覚，須永努，はじめてのマーケティング[新版]，有斐閣，総 10 章
☆守口　剛	論文	河股久司・守口剛，ブランド・ロゴ変更時の彩度の変化が消費者のブランド態度に与える影響，マーケティング・ジャーナル，42 巻 3 号，日本マーケティング学会，pp.39-50，2023.
	論文	河股久司・守口剛，価格リスト上における製品価格と背景色の明度の一致が消費者の態度に与える影響，JSMD レビュー，日本商業学会，査読の上刊行決定済
☆フランク・ビョーン	論文	B. Herbas-Torrico, B. Frank (2022): “Explaining Interpersonal Differences in COVID-19 Disease Prevention Behavior Based on the Health Belief Model and Collective Resilience Theory: A Cross-Sectional Study from Bolivia”, BMC Public Health, 22, Article 1077, DOI
☆河股久司	共著	河股久司，守口剛，ブランド・ロゴ変更時の彩度の変化が消費者のブランド態度に与える影響，マーケティングジャーナル　42(3)，pp. 39-50　2023
	共著	權純鎬，河股久司，須田孝徳，電子媒体の画面接触が決済サービスのコントロール感と心理的所有感に及ぼす影響，マーケティングジャーナル　42(3)，pp. 51-62，2023
◎石崎　徹	論文	日本型広告表現に関する研究序説
◎田部渓哉	論文	田部渓哉，情報源の認識がネイティブ広告の効果に及ぼす影響：説得知識を軸としたモデルの検討，広告科学第 69 集，日本広告学会，p1-22 2022
	論文	篠原康男，田部渓哉，経営学部の入学前教育に関する取り組み事例，城西大学経営紀要第 18 号，城西大学経営学部，p.83-104 2022
◎芳賀康浩	共著	東伸一・芳賀康浩（2022），「青山」の地域イメージの分析，青山経営論集第 56 巻第 4 号，pp. 87-107
	論文	芳賀康浩（2022），ソサイエタル・マーケティング研究の動向と課題，立命館産業社会論集，第 58 巻第 1 号，pp. 33-48

（２）学会発表		
研究所員名	業績種別	発表タイトル・発表者名　等
☆恩藏直人	学会発表	Taku Togawa, Naoto Onzo (2022), The Three-dimensional Effect in Logo Design: Using Depth to Influence Consumers' Perceptions and Evaluations of the Brand, American Marketing Association, AMA 2022 Summer Academic Conference 2022 年 8 月
	学会発表	Nobuyuki Fukawa, Naoto Onzo (2022), Value Creation and Disruptive Innovation by Robots, Academy of Marketing Science Annual Conference 2022
	学会発表	Ikumi Hiraki, Kwon SoonHo, Naoto Onzo, The effect of music on vertical interpersonal communication: A sensory marketing perspective American Marketing Association (2022), 2022 AMA Winter Virtual Conference
	学会発表	Oohira Susumu, Ishida Daisuke, Iwashita Hitoshi and Onzo Naoto (2022) "Longitudinal analysis of referral campaign effects in industrial markets", IMP Asia 2022
☆守口　剛	学会発表	河股久司・守口剛（2022）商品陳列における商品間距離が商品の複数購買に与える影響，日本マーケティング・サイエンス学会第 112 回研究大会，慶応義塾大学
	学会発表	河股久司・守口剛（2022）彩度の変化が新しさの知覚に与える影響，日本マーケティング・サイエンス学会第 111 回研究大会，関西学院大学
☆フランク・ビョーン	学会発表	F.S. Rumokoy, B. Frank (2022): "The Supervising Manager's Role in Facilitating the Effect of Subordinate Employees' Continuous Improvement Practices on Performance Outcomes: A Comparison of Different Leadership Styles", Proceedings of the 128th Conference of the Japanese Society for Quality Control, May 28, online, 71-74 (査読無).
	学会発表	F.S. Rumokoy, B. Frank (2022): "How Can Managers Maximize the Performance Outcome of Empowering Their Employees? The Roles of Supportive Leadership and Laissez-Faire Leadership", Proceedings of the 52nd Annual Main Conference of the Japanese Society for Quality Control, November 12, online, 121-124 (査読無).
	学会発表	Y. Hu, B. Frank (2022): "Empowering Women: Market Consequences, Mechanisms, and Contingencies", Proceedings of the ANZMAC 2022 Conference, December 5-7, Perth (査読有).
	学会発表	T. Thanh Nguyen, B. Frank, M. Dost, Y.F. Badir (2022): "Marketing Capability Effectiveness: Variation by Managerial Risk-taking", Proceedings of the ANZMAC 2022 Conference, December 5-7, Perth (査読有).
	学会発表	L. Makoudi, B. Frank (2022): "The Role of Blockchain Technology in Redefining Consumer Trust in E-Commerce: An Extension of the Theory of Organizational Trust", Proceedings of the 2022 Conference on Crypto-Marketing, December 5-6, New York (査読有).
☆河股久司	学会発表	權純鎬，河股久司，須田孝徳（2022）「モバイル決済時における触覚経験が心理的所有感に及ぼす影響」，第 64 回消費者行動研究コンファレンス
	学会発表	河股久司，守口剛（2022）「彩度の変化が新しさの知覚に与える影響」日本マーケティング・サイエンス学会第 111 回研究大会
	学会発表	KAWAMATA Hisashi (2022) Harmony Perception Backfire: the effect of product display based on hue color combination, 44th ISMS Marke

	学会発表	河股久司，守口剛（2022）「商品陳列における商品間距離が商品の複数購買に与える影響」日本マーケティング・サイエンス学会第 112 回研究大会
☆劉　玉婷	学会発表	LIU Yuting (2023)「Effective Strategies for Soundless Video Advertisements」2023 AMA winter academic conference, Nashville, TN
◎石田大典	学会発表	Oohira Susumu, Ishida Daisuke, Iwashita Hitoshi and Onzo Naoto (2022) “Longitudinal analysis of referral campaign effects in industrial markets” IMP Asia 2022
◎大平　進	学会発表	Oohira Susumu, Ishida Daisuke, Iwashita Hitoshi and Onzo Naoto (2022) “Longitudinal analysis of referral campaign effects in industrial markets”, IMP Asia 2022
◎田部渓哉	学会発表	田部渓哉（2022）「ネイティブ広告研究の方向性：媒体比較のための理論的枠組みの探究」，2022 年度日本商業学会関東部会，日本商業学会
◎広瀬盛一	学会発表	Lawrence Ang, Hilde Voorveld, Guda Van Noort, Marthinus Coetzee Van Loggerenberg, Rodrigo Uribe, Cristian Buzeta and Morikazu Hirose (2022) A solution-oriented view on the academic-practitioner divide: A six-country case study, ICORIA 2022, Prague, Czech Republic.
◎峯尾　圭	学会発表	Keigo Taketani, & Kei Mineo (2022.12.3) “How Do Foreign Tourists React To Mistranslations?” ANZMAC (Australian & New Zealand Marketing Academy) Conference, The University of Western Australia

整理番号　2022-02

研究課題　習近平第 3 期体制下の「一帯一路」構想における異文化接触

研究業績の概要・成果発表等

2022 年度も原則としてオンラインでの研究活動を中心としつつも、一部対面での講演会を開催した。分科会として開催した講演会は下記の通りである。なお、産研フォーラムについては現在報告書を鋭意編集中である。

〔講演会〕

・日　時：2022 年 5 月 2 日(月)14:45～16:15（Zoom によるオンライン開催）
　演　題：「米中対立時代における台湾－2021 年体制の形成」
　講演者：小笠原欣幸氏〔東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授〕
・日　時：2022 年 6 月 16 日(木)13:00～14:30（Zoom によるオンライン開催）
　演　題：「中国の国家安全と民主主義をめぐる葛藤」
　講演者：阿古智子氏〔東京大学大学院総合文化研究科教授〕

〔第 45 回 産研フォーラム〕

テーマ：「G ゼロ時代の中国ビジネス―日中国交正常化 50 周年記念」
（於：大隈講堂、対面とオンラインのハイブリッド開催）
日　時：2022 年 12 月 12 日（月）9:20～17:30
講演者：池添　洋一（伊藤忠（中国）集団董事長・中国日本商会会長）
　　江田　憲治（京都大学名誉教授）
　　中澤　克二（日本経済新聞編集委員兼論説委員）
　　長堀　祐造（慶應義塾大学名誉教授）
　　西山　明宏（朝日新聞中国総局記者）
　　水田　賢治（日本貿易振興機構上海事務所所長）
来　賓：岩本　桂一（外務省アジア大洋州局審議官）　以上

（1）論文・著書

研究所員名	業績種別（論文・単著・共著・研究ノート等）	発表論文名・著書名　等
※小川利康	論文	小川利康，周作人的历史循环论 —从巴枯宁的警句说起，周氏兄弟研究第 1 号，周氏兄弟研究会，（校正中），2023 年 3 月
☆荒井　訓	論文	荒井訓，Wer blau macht.－表象としてのジーンズ－，文化論集第 61 号，早稲田商学同攻会（早稲田大学），P.1-52
☆ｸﾗｳｽ ﾏﾇｴﾙ P	論文	Manuel Philipp KRAUS, “Ich schwöre weinend, es sei nicht meine Schrift” - Zwischen Exotik und Technik. Moderne Technologie als mediale Aneignung indigener Denkmuster, 日本独文学会機関誌『ドイツ文学』混合誌 特集テーマ「技術・テクノロジー」164 号, p.108-132 2022 年 7 月
	共著	井出万秀，放送大学・ドイツ語Ⅱ（’23）放送大学教育振興会，2023 年 3 月
	共著	井出万秀，放送大学・ドイツ語Ⅰ（’23）放送大学教育振興会，2023 年 3 月

☆中村みどり	論文	中村みどり「第九章 中国留日作家描写的“日本”」，徐志民等著《团体与日常—近代中国留日学生的生活史》（北京）社会科学文献出版社，211～236 頁，2022 年
☆松川雄哉	共著	野澤督，武井由紀，茂木良治，菅沼浩子，中野茂，松川雄哉，山田仁，フランス語の学習指針～日本の中等教育におけるフランス語教育のために～　－ver.2.0－，トレフル出版，全 2 章／担当部分：『フランス語の学習指針』における語彙・文法の学習について，p.22-30，2022
☆李　洪茂	単著	『保険論』第 2 版，Hakuei Publishing Company，2022 年 10 月，p.497（22 章）
	単著監修	Hongmu Lee, Gianni Nicolini, Man Cho, ed., International Comparison of Pension Systems: An Investigation from Consumers' Viewpoint, Springer, 2022, p.522 (15 章).
	論文	「韓国における新時代の巨大災害とリスク・ファイナンシング：巨大災害と保険制度を中心に」『保険学雑誌』日本保険学会，第 659 号，2022 年 12 月，pp.261-283
	論文	Man Cho, Gianni Nicolini, and Hongmu Lee, “The National Pension Systems and Financial Consumers: An International Comparative Perspective on the Key Linkages”, International Comparison of Pension Systems: An Investigation from Consumers' Viewpoint, Springer, 2022 (pp.3-26)
	論文	Hongmu Lee, “Retirement Income Security in Japan: An Overview of the Public and Private Pension System” ,International Comparison of Pension Systems: An Investigation from Consumers' Viewpoint, Springer, 2022 (pp.49-88)
◎川邉信雄	単著	川邉信雄　日系コンビニエンスストアの国際展開－流通近代化を超えて－　文眞堂，2023 年 3 月　全 8 章
◎竹之内玲子	論文	Horaguchi, H., Takenouchi, R., “Business Continuity for Institutional Product Development: Comparative Study of Honda Business Jet and Mitsubishi Regional Jet”, Annual Conference of Academy of International Business proceedings paper, p.1-25, 2022
◎李　　雪	論文	李雪, 顧客接点から見る中国 EC 成長モデルの転換：アリババとテンセントの戦略, 流通情報 53 (6), 公益財団法人流通経済研究所, p.27-36 2022

（２）学会発表

研究所員名	業績種別	発表タイトル・発表者名　等
☆ｸﾗｳｽ ﾏﾇｴﾙ P	学会発表	Manuel Philipp KRAUS (2022), Wissenschaftliche Aufsätze auf Deutsch, 日本独文学会・ドイツ語論文執筆ワークショップ（日本独文学会）2022 年 12 月 3 日，立教大学
	学会発表	Manuel Philipp KRAUS (2022), Hakenkreuz, Kurbelkasten und Drilling. Exotischer Faschismus in Reise- und Abenteuerliteratur vor und während des Nationalsozialismus, Exotismen in der Kritik. 2022 年 6 月 5 日 国際コロキウム，上智大学
☆中村みどり	学会発表	中村みどり「モダニズムとしてのプロレタリア芸術運動と村山知義――築地小劇場から上海芸術劇社へ」，国際シンポジウム「Roar Asia! Proletarian Art and Literature in East Asia and their Cultural Transfer during the 1920s and 1930s／吼えろアジア　東アジアのプロレタリア文学・芸術とその文化移転 1920-30 年代」，立命館大学，2022 年 7 月

☆松川雄哉	学会発表	松川雄哉（2022）「移民の社会統合を支えるフランス語教育－ケベック州の大学における取り組みについて－」（シンポジウム：ケベックにおけるフランス語教育－社会文化的コンテキストのなかで），日本ケベック学会 2022 年度大会，関西学院大学
☆矢内義顕	学会発表	矢内義顕（2022）「対話と神学－アンセルムスの場合－，日本宗教学会大会，愛知学院大学
☆李　洪茂	学会発表	李洪茂「私的年金と支払保証－日本の事例を中心に－」韓国 FP 学会・韓国保険研究院共同セミナー，2022 年 8 月 24 日
	学会発表	李洪茂「Disaster Risks and Risk Financing in Japan」2022-2023 The 1st PKU-WASEDA Workshop, October 21, 2022 (zoom)
	学会発表	李洪茂「2022 K-ASEAN RMI Forum, Private Pension Plans and Protection of Pension Benefit Rights; Focusing on Korea Japan Comparison」December 02, 2022 (SKKU)
	学会発表	李洪茂「国家間の社会保障協定と公的年金の受給－日米間の事例を中心に－」韓国貿易学会，2022 年 12 月 16 日
◎白石　徹	セミナー発表	白石徹（2022）中国共産党 100 年～今後の中国経済など　東京新聞編集局・ニュース深掘り講座
◎竹之内玲子	学会発表	Horaguchi, H., Gargeya, V.B, Takenouchi, R., (2022) “Sustaining Organizainal Excellence with Leadership: The Case of Honda jet,” 2022 Annual Conference of The Production and Operations Management Society, Virtual
	学会発表	Horaguchi, H., Takenouchi, R., Gargeya, V.B, (2022) “Global Product Development and Leadership: Long-Term Commitment and Corporate Governance of Honda for its Wholly Owned Subsidiary, 2022 Annual Conference of The Association of Japanese Business Studies, Virtual
	学会発表	Horaguchi, H., Takenouchi, R., (2022) “Business Continuity for Institutional Product Development: Comparative Study of Honda Business Jet and Mitsubishi Regional Jet”, 2022 Annual Conference of Academy of International Business, Virtual

整理番号　2022-03

研究課題　技術革新、自然・社会環境の変化が保険ビジネス及び保険制度に与える影響と課題

研究業績の概要・成果発表等

研究課題に対して、研究員それぞれにおいて研究を進めた。特筆する成果として、以下がある。

①研究員の協力により、2022 年 11 月、日本保険学会全国大会を中出が大会責任者となって早稲田大学・国際会議場にて開催した。「社会課題の解決に向けた保険の意義と課題産研」というシンポジウムも行い、産研が共催する形で、同学会の歴史でも最大参加者数の大会となった。

②研究員における国際的活動に力を入れ、国際学会での報告や英語による論文等の執筆を行った。

③分科会の 3 名の共同研究の成果が産研ジャーナル（A 評価）に掲載された。

④分科会の多くが、科研費やその他の競争的資金を取得した。

（1）論文・著書

研究所員名	業績種別（論文・単著・共著・研究ノート等）	発表論文名・著書名　等
※中出　哲	論文	Jie Shao, Akio Hoshino, Satoshi Nakaide, “How do floods affect insurance demand? Evidence from flood insurance take-up in Japan”, International Journal of Disaster Risk Reduction, pages. 103424, 2022
	論文	中出哲「地震リスクに対する企業保険制度の課題：問題提起」，保険学雑誌 657 号，日本保険学会，p.1-20，2022 年
	論文	中出哲「リスクから見た二つの保険制度－保険の基本原則を手掛かりとした問題提起－」生命保険論集 221 号，生命保険文化センター，p.1-33，2022 年
	論文	中出哲「再保険金請求控訴事件」，金融・商事判例 1661 号，経済法令研究会，p.62-67，2023
	共著	中出哲「第 6 章　船舶衝突と海上保険」箱井崇史・松田忠大編著『船舶衝突法　第 2 版』成文堂，p.423-469，2023
	共著	中出哲「第 3 条　損害保険契約の目的」「第 18 条　損害額の算定」「第 19 条　一部保険」「第 22 条　責任保険契約についての先取特権」山下友信・永沢徹『論点体系　保険法 I　第 2 版』第一法規，p.70-78，p.199-207，p.208-212，p.233-243，2022 年
	共著	中出哲「訴訟対応における基本的視点」山下丈・山の嘉朗・田中敦編「保険関係訴訟　第 2 版」民事法研究会，p.552-568，2023 年
☆星野明雄	論文	Jie Shao, Akio Hoshino, Satoshi Nakaide, How do floods affect insurance demand? Evidence from flood insurance take-up in Japan, International Journal of Disaster Risk Reduction Volume 83, P.1-18 2022
	単著	星野明雄,「保険商品開発の理論」保険毎日新聞社，p.1-205, 2022, 8 章
☆李　洪茂	単著	『保険論』第 2 版，Hakuei Publishing Company，2022 年 10 月，p.497 (22 章)
	著書監修	Hongmu Lee, Gianni Nicolini, Man Cho, ed., International Comparison of Pension Systems: An Investigation from Consumers’ Viewpoint, Springer, 2022, p.522 (15 章)
	論文	「韓国における新時代の巨大災害とリスク・ファイナンシング：巨大災害と保険制度を中心に」『保険学雑誌』日本保険学会，第 659 号，2022 年 12 月，pp. 261-283

	共著	Man Cho, Gianni Nicolini, and Hongmu Lee, “The National Pension Systems and Financial Consumers: An International Comparative Perspective on the Key Linkages”, International Comparison of Pension Systems: An Investigation from Consumers’ Viewpoint, Springer, 2022 (pp.3-26)
	単著	Hongmu Lee, “Retirement Income Security in Japan: An Overview of the Public and Private Pension System”, International Comparison of Pension Systems: An Investigation from Consumers’ Viewpoint, Springer, 2022(pp.49-88)
○邵　　傑	共著	Jie Shao, Akio Hoshino, Satoshi Nakaide, How do floods affect insurance demand? Evidence from flood insurance take-up in Japan, International Journal of Disaster Risk Reduction Volume 83, P.1-18 2022

（２）学会発表

研究所員名	業績種別	発表タイトル・発表者名　等
※中出　哲	学会発表	中出哲「社会課題の解決に向けた保険の意義と課題：問題提起」，2022 年度日本保険学会全国大会，早稲田大学
	学会発表	中出哲「Recent Development of Earthquake Insurance in Japan」2022 年 11 月 17 日－18 日，AI Insurance Work，ロンドン大学キングスカレッジ
☆田口尚志	学会発表	田口尚志（2022），基調講演「ビジネスコミュニケーションの視点から見る貿易取引」，2022 年 10 月 15 日（土），国際ビジネスコミュニケーション学会第 82 回全国大会，於：同志社大学オンライン開催
	学会発表	田口尚志（2022），発表タイトル「2020 年版インコタームズにおける FCA について」，2022 年 10 月 16 日（日），国際ビジネスコミュニケーション学会第 82 回全国大会，於：同志社大学オンライン開催
☆星野明雄	学会発表	星野明雄（2022）収支相等の原則の意義と限界－数理面からの一考察－　日本保険学会令和 4 年度大会，早稲田大学
☆李　洪茂	学会発表	李洪茂「私的年金と支払保証－日本の事例を中心に－」韓国 FP 学会・韓国保険研究院共同セミナー，2022 年 8 月 24 日
	学会発表	李洪茂「Disaster Risks and Risk Financing in Japan」2022-2023 The 1st PKU-WASEDA Workshop, October 21, 2022 (zoom)
	学会発表	李洪茂「2022 K-ASEAN RMI Forum, Private Pension Plans and Protection of Pension Benefit Rights; Focusing on Korea Japan Comparison」December 02, 2022(SKKU)
	学会発表	李洪茂「国家間の社会保障協定と公的年金の受給－日米間の事例を中心に－」韓国貿易学会，2022 年 12 月 16 日
◎安井敏晃	学会発表	安井敏晃（2022）「人保険におけるモラルハザードー不正請求へのアプローチー」2022 年度日本保険学会大会，早稲田大学
○邵　　傑	学会発表	Jie Shao (2022)「Risk Perception and Catastrophe Insurance Demand: An Analysis Based on Evolutionary Game and Prospect Theory（英語）」2022 Global Forum for Financial Consumers, IAFICO

整理番号　2022-04

研究課題　民法・会社法の改正が企業活動に及ぼす影響と法的課題

研究業績の概要・成果発表等

2022 年度は、第 1 に、標記研究課題に関連して、当分科会のメンバーが精力的に論文・著書を発表した。その具体的な内容は、下記の研究業績報告に記載のとおりである。

第 2 に、分科会主任者の中村は、下記の研究業績報告に記載のとおり、2022 年度日本保険学会全国大会での報告のほか、同年度保険学セミナーでの報告を行ったが、いずれも保険法と民法との交錯問題を扱ったものであり、標記研究課題の一環ということができる。また、兼任研究員の川島教授は、2022 年度日本私法学会第 85 回大会・シンポジウムにおいて下記テーマで報告を行い、その中で、これまでの会社法改正が企業法務に及ぼす影響に言及するとともに今後の立法課題を提示し、その解決方策を提唱した。

第 3 に、科研費の申請・採択状況は、下記の研究業績報告に記載の通りであり、研究の経済基盤の確保に務めるとともに、分科会主任者の中村が国際共同研究強化 B を獲得したことにより、研究活動の国際展開の基盤整備に成功した。

なお、今年度も研究会を開催することができなかったが、2023 年度は、分科会主任者が研究代表者となり兼任研究員の川島教授が研究分担者の一人として参加する国際共同研究強化 B の研究課題に関し、わが国でも法改正に向けた検討が開始される可能性があることから、当分科会の活動の一環として、当該研究課題に係る緊急シンポジウムを行うことを検討している。

（1）論文・著書

研究所員名	業績種別（論文・単著・共著・研究ノート等）	発表論文名・著書名　等
※中村信男	論文	中村信男，任意加入型団体保険契約における二重構造問題に対する法的解決方策の再検討，生命保険論集 222 号，81-109 頁，生命保険文化センター，2023 年
	著書（共著）	中村信男・和田宗久・新井剛，ビジネス法入門（第 4 版），中央経済社，全 17 章，2023 年 中村信男，第 1 章「イントロダクション」，1-10 中村信男，第 8 章「商取引法の概要と特色 (1)」，70-76 中村信男，第 9 章「商取引法の概要と特色 (2)」，77-84 中村信男，第 16 章「M&A および組織再編等」，161-175 中村信男，第 17 章「支払決済手段」，176-191
	論文	中村信男，第三者の故意による事故招致免責，金融・商事判例 1661 号，経済法令研究会，pp.50-55，経済法令研究会，2023 年
	論文	中村信男，四半期開示制度の見直しと今後の課題，商事法研究リポート https://tvs.mjs.co.jp/working/commercial/businesslaw/detail/article/s63d6a1702c514.html，pp.1-5，2023 年
	論文	Nobuo Nakamura, Analysis of recent high-profile cases regarding legal actions for suspension of defensive measures against hostile takeovers in Japan, Waseda Bulletin of Comparative Law, Volume 41, pp.55-76, 2023 年
	論文	中村信男，海外における人権デュー・ディリジェンスの法制化，商事法研究リポート https://tvs.mjs.co.jp/working/commercial/businesslaw/detail/article/a6330355ca9dae.html，pp.1-5，2022 年

☆新井　剛	著書（共著）	中村信男・和田宗久・新井剛（2023），ビジネス法入門（第 4 版），中央経済社，全 17 章 新井剛，第 2 章「企業取引と法律」，11-16 新井剛，第 3 章「企業取引と契約(1)」，17-23 新井剛，第 4 章「企業取引と契約(2)」，24-32 新井剛，第 5 章「企業取引と契約(3)」，33-44 新井剛，第 6 章「企業取引と契約(4)」，45-55 新井剛，第 7 章「不動産および動産の取引」，56-69
	資料	新井剛，不動産法講義（１），早稲田商学第 463 号，早稲田商学同攻会，p.37-64 2022
	資料	新井剛，不動産法講義（２），早稲田商学第 464 号，早稲田商学同攻会，p.79-111 2022
☆和田宗久	著書（共著）	中村信男・和田宗久・新井剛（2023），ビジネス法入門（第 4 版），中央経済社，全 17 章 和田宗久，第 10 章「会社制度の特徴と会社の種類」，85-93 和田宗久，第 11 章「株式会社の経営機構と監視・監督制度」，94-106 和田宗久，第 12 章「上場会社とコーポレート・ガバナンス」，107-122 和田宗久，第 13 章「役員等の義務と報酬規制」，123-135 和田宗久，第 14 章「役員等の民事責任と株主代表訴訟」，136-150 和田宗久，第 15 章「ファイナンスに関する法制度」，151-160
	論文	和田宗久，パブリック・ベネフィットを追及する会社制度について，Monthly Report 168 号，MJS 税経システム研究所，p.8-11 2023
	論文	和田宗久，合同会社における社員の除名，TKC ローライブラリー 新・判例解説 Watch (z18817009-00-051672277)，p.1-4 2023 年
	論文	注釈金融商品取引法【改訂新版】〔第 4 巻〕不公正取引規制，第一法規，2022
☆川島いづみ	論文	川島いづみ，公開会社・有報提出会社・上場会社，旬刊商事法務 2303 号，商事法務研究会，20 頁－29 頁，2022 年
	論文	川島いづみ，議決権行使の代理人資格の制限と弁護士，Monthly Report 166 号，MJS 税経システム研究所，9 頁－12 頁，2022 年
	論文	川島いづみ，非財務情報に関する開示規制の高度化－イギリスにおける TCFD 提言に沿ったサステナビリティ情報等の開示法制－，早稲田社会科学総合研究，社会科学学会，20 巻 1 号，全 19 頁，2022 年度発行予定
	論文	川島いづみ，非財務情報開示の新たな潮流（2022 年 7 月），MJS 税経システム研究所，https://tvs.mjs.co.jp/working/commercial/businesslaw/article/f62b4579de261f.html?no cache=1

（２）学会発表

研究所員名	業績種別	発表タイトル・発表者名　等
※中村信男	学会発表	中村信男（2022），共通論題「生命保険契約における『対価関係』の考察」，趣旨説明，2022 年度日本保険学会全国大会，早稲田大学
	セミナー発表	中村信男（2022），「任意加入型団体保険契約における二重構造問題に対する法的解決方策の再検討」，2022 年度第 1 回保険学セミナー，公益財団法人生命保険文化センター

☆川島いづみ	学会発表	川島いづみ（2022）「株式会社法における区分と規律－Ⅲ　公開会社・有報提出会社・上場会社」，2022 年度日本私法学会第 85 回大会　シンポジウム，甲南大学

整理番号　2022-05

研究課題　４次元空間内の曲面の研究

研究業績の概要・成果発表等

研究所員による７編の研究論文（A*論文４編，A 論文２編，B 論文１編）が発表された。特に山口氏の論文は、A*の中でも上位の論文である。また、7 人中 5 人の所員は、科研費を獲得している。１月 30 日に、フランスの研究者 Jean-Baptiste Meilhan 氏を招いて、講演会を行った。対面形式のみの開催にもかかわらず、他大学（津田塾大学、東京工業大学、神戸大学）からの参加者もあった。

（１）論文・著書

研究所員名	業績種別（論文・単著・共著・研究ノート等）	発表論文名・著書名　等
※安原　晃	論文	Jean-Baptiste Meilhan, Akira Yasuhara, Link concordances as surfaces in 4-space and the 4-dimensional Milnor invariants, Indiana University Mathematics Journal, 71 (2022), 2647-2669
	論文	Haruko A. Miyazawa, Kodai Wada, Akira Yasuhara, COMBINATORIAL APPROACH TO MILNOR INVARIANTS OF WELDED LINKS, Michigan Mathematical Journal 掲載決定
	論文	Haruko A. Miyazawa, Kodai Wada, Akira Yasuhara, The Dabkowski-Sahi invariant and 4-moves for links, Geometriae Dedicata 掲載決定
☆谷山公規	共著	A. Inoue, N. Kimura, R. Nikkuni and K. Taniyama, Crossing numbers and rotation numbers of cycles in a plane immersed graph, J. Knot Theory Ramifications, 2250076, 2022/10/11.
☆山口祥司	論文	Yoshikazu Yamaguchi, Dynamical zeta functions for geodesic flows and the higher-dimensional Reidemeister torsion for Fuchsian groups, Journal für die reine und angewandte Mathematik (Crelle's Journal), De Gruyter, 784, p.155-176.
◎相馬輝彦	共著	S. Kiriki, Y. Nakano and T. Soma, Emergence via non-existence of averages, Advances Math. 400, no. 108254 2022
	共著	S. Kiriki, X. Li, Y. Nakano and T. Soma, Abundance of observable Lyapunov irregular sets, Comm. Math. Phys. 391, 1241-1269 2022

（２）学会発表

研究所員名	業績種別	発表タイトル・発表者名　等
※安原　晃	学会発表	安原晃（2022）「Concordance for higher dimensional welded objects and their Milnor invariants」Intelligence of Low-dimensional Topology
☆辻内宣博	学会発表	辻内宣博（2022）「絶望は罪であるか――トマス・アクィナスにおける罪の理論」2022 年度第 22 回キェルケゴール協会研究大会，東洋大学
☆山口祥司	セミナー発表	山口祥司（2022）「Dynamical zeta functions for geodesic flows and the higher-dimensional Reidemeister torsion for Fuchsian groups」，東京大学

整理番号　2022-06

研究課題　日本・世界のコーポレートガバナンスと金融・労働市場

研究業績の概要・成果発表等

本年度は、ファイナンスや組織の経済学と関連するオンラインまたはハイフレック型でのセミナーを計18回開催した。

各セミナーとも内外の最先端の研究を報告するもので、参加メンバーの研究に大きく貢献した。

また、研究会の前にモデレーターと報告者等でのミーティングを行うことで、研究ネットワークの維持、拡大に寄与した。

（1）論文・著書

研究所員名	業績種別（論文・単著・共著・研究ノート等）	発表論文名・著書名　等
☆久保克行	論文	指名ガバナンス改革の方向性：2021年サーベイ結果をもとに（上）指名ガバナンスの実態と改革のための提言　久保克行，内ヶ﨑茂，飯干悟，橋本謙太郎　ビジネス法務　22 (4), 117-122, 2022-04
	論文	久保克行，内ヶ﨑茂，飯干悟，橋本謙太郎　指名ガバナンス改革の方向性：2021年サーベイ結果をもとに（下）望ましい取締役会を実現するための理想の指名ガバナンスとは　ビジネス法務　2022-05 22 5 133-137
	論文	久保克行，内ヶ﨑茂，橋本謙太郎，岩田航　経営者報酬ガバナンス改革の方向性：2021年サーベイ結果をもとに（第2回）望ましい報酬プラクティスを実現するための理想の報酬ガバナンスとは　企業会計 =Accounting 74 (7), 982-987, 2022-07
	論文	久保克行，内ヶ﨑茂，橋本謙太郎，岩田航　経営者報酬ガバナンス改革の方向性：2021年サーベイ結果をもとに（第1回）経営者報酬の現在地と深化への提言企業会計 =Accounting 74 (6), 826-832, 2022-06
☆宮島英昭	論文	Hideaki Miyajima, “Corporate governance reform, and ownership, and control: perspective from Japan”, Asian Journal of Political Science, pp.1-13, 2023
	研究ノート	宮島英昭「パーパス経営と金融機関」『月刊金融ジャーナル』2022年8月号　Vol.63 No.8 pp.22-27　金融ジャーナル社　2022年
	研究ノート	宮島英昭「「新しい資本主義」の課題（下）自社株買い　安易な規制回避」『日本経済新聞（経済教室）』2022年（小川亮との共著）
	研究ノート	宮島英昭「パーパス経営と長期株主：日本型モデル2.0に向けて」『企業経営』158号　pp.8-11　一般財団法人企業経営研究所　2022年
☆尾崎祐介	論文	Yoichiro Fujii and Yusuke Osaki, Effect of regret sensitivity on self-insurance and self-protection, Applied Economics, Forthcoming.
◎五島圭一	論文	五島圭一・八木厚樹，東京株式市場におけるカーボンプレミアム，証券アナリストジャーナル60巻8号，日本証券アナリスト協会，p.67-89，2022
	論文	Keiichi Goshima, Hiroshi Ishijima, Mototsugu Shintani, News implied volatility and aggregate economic activity: evidence from the Japanese government bond market, Applied Economics Letters (Published online),

		Informa UK Limited, p.1-6, 2022
	論文	五島圭一，新谷元嗣，高村大也　景気単語極性辞書の構築とその応用，自然言語処理 29 巻 4 号，言語処理学会，p.1233-1253，2022
◎グエン ティン フォン タン	共著	Nguyen, T.P.T, Thai, H.M. (2022). Effects of female directors on gender diversity at lower organization levels and CSR performance: Evidence in Japan. Global Finance Journal, 53, 100749.
◎吉田賢一	論文	吉田賢一，馬奈木俊介　新国富指標，貿易と感染症，国際経済，日本国際経済学会，近刊，2023
	論文	Kenichi Yoshida, Kenichi Kurita, Shunsuke Managi, Stakeholder engagement as a sustainable development strategy: Managerial entrenchment for cross-shareholdings, Corporate Social Responsibility and Environmental Management, Wiley, Volume 30, Issue 1, pp. 402-418, 2023
	論文	Alexander R. Keeley, Andrew J. Chapman, Kenichi Yoshida, Jun Xie, Janaki Imbulana, Shutaro Takeda, Shunsuke Managi, ESG metrics and social equity: Investigating commensurability, Frontiers in Sustainability, Frontiers Media, Volume 3, 2022
	論文	Kenichi Yoshida, Yoshiaki Iino, Shunsuke Managi, Do Japanese keiretsu promote better CSR activities?, Economic Analysis and Policy, Elsevier, Volume 76, pp. 452-475, 2022
○飯野佳亮	共著	Kenichi Yoshida, Yoshiaki Iino, Shunsuke Managi, Do Japanese keiretsu promote better CSR activities?, Economic Analysis and Policy, pp.452-475, 2022

（２）学会発表

研究所員名	業績種別	発表タイトル・発表者名　等
※広田真一	学会発表	広田真一（2022）「Money Supply, Opinion Dispersion, and Stock Prices」，2022 年度日本経済学会秋季大会，慶應義塾大学
☆久保克行	学会発表	Katsuyuki Kubo (2022) “International and comparative employment relations: Japan” in British University Industrial Relations Association, June 22, University of Birmingham (online)
☆宮島英昭	学会発表	宮島英昭「日本型モデル 2.0 に向けて：パーパス経営と所有構造」日本経営学会 96 回大会　明治大学（オンライン）2022 年
	学会発表	宮島英昭「海外機関投資家の役割の「静かな変容」：規模別株式保有パターンの変化とその含意」日本ファイナンス学会第 30 回大会　青山学院大学　2022 年（篠潤之介，齋藤卓爾との共著）
☆尾崎祐介	学会発表	尾崎祐介（2022）「高次リスク態度のレビュー」第 25 回実験社会科学カンファレンス
	セミナー発表	Takao Asano and Yusuke Osaki (2022) Mixed correlation aversion and correlated background risk, 名古屋市立大学経済学研究会火曜研究会
◎グエン ティン フォン タン	学会発表	Nguyen, T.P.T (2022) 「Political connection, performance and behaviors at firm level: An empirical research from a transition economy」, the 10th International Conference On Emerging Challenges (ICECH): STRATEGIC ADAPTATION IN THE WORLD OF UNCERTAINTIES, Ho Chi Minh City, Vietnam.
	学会発表	Nguyen, T.P.T (2022) 「Foreign director and firm performance in Japan」, The 4th Asia Conference on Business and Economic Studies (ACBES 2022), Ho Chi Minh City, Vietnam

整理番号　2022-07

研究課題　英語による発信力を強化する体系的プログラムの開発（Ⅱ）

研究業績の概要・成果発表等

2022 年度も、残念ながら COVID-19 の影響により、グループでの活動に大幅な制約を受けたため、研究計画による「研究分担」に基づいて各研究員が研究を行った。佐藤、鈴木、篠原、室谷は国際学会等でオンラインおよび対面で発表を行った。共通の視点として、口語や音声等、対面のコミュニケーションにおける英語学習（者）を研究の対象にしていることが挙げられる。これは、論文、著書の発表、出版においても同様である。また、2 回の全体会合、1 回の講演会（Prof. Gilles-Maurice de Schryve, Ghent Univ., hybrid）を行い、その都度情報を交換した。外部資金の申請・獲得も積極的に行った。この点でも COVID-19 対策長期化のために、2021 年度と同じく各研究員が「研究分担」に基づく各研究員の独自の研究に頼る事となり、部会としてのまとまった活動はできなかったが、佐藤、鈴木、篠原、森田、室谷は本研究課題の視点を重視しながら継続課題の研究に当たった。そうした中でも、商学部の GMP の取り組みと連動させ、英語の発信力強化のプログラムの実践について知見を蓄積する事ができ、情報の交換を頻繁に行っている。来年度は、GMP 2 年間の成果も踏まえ、各研究員の研究を統合するための活動を再開、強化する。

（1）論文・著書

研究所員名	業績種別（論文・単著・共著・研究ノート等）	発表論文名・著書名　等
☆篠原靖明	論文	Shinohara, Y. (2022). Perception of noise-vocoded sine-wave speech of Japanese pitch-accent words. JASA Express Letters, 2(8), 085204. https://doi.org/10.1121/10.0013423
◎篠田義明	単著	篠田義明『5 分間　科学・技術英語』南雲堂　Chapter 1-Chapter 20 p.1-48
	単著	篠田義明「信頼される実用英会話」一般社団法人　日本オープンオンライン教育推進協会　単元 1－単元 13
	単著	篠田義明「科学論文英語・実用英語の基本」一般社団法人　日本オープンオンライン教育推進協議会　単元 1－単元 13
◎室谷章子	論文	Akiko Muroya, Interpreting unwillingness to speak L2 English by Japanese EFL learners, Open Linguistics, Volume 9 (1), De Gruyter, doi:10.1515/opli-2022-0227, 2023

（2）学会発表

研究所員名	業績種別	発表タイトル・発表者名　等
☆佐藤詩惠	学会発表	(査読付) Shie, Sato. There's Reasons to Choose "There's": A Corpus-based Analysis of "There-existentials" in Spoken American English. (英語) ICLELL
☆鈴木利彦	学会発表	鈴木利彦（2022）「ICT を活用した自立的・自律的な国際コミュニケーション・スキルズ演習の取り組み」，公益社団法人私立大学情報教育協会　2022 年度分野連携アクティブラーニング対話集会
☆篠原靖明	学会発表	Shinohara, Y., (2022, December). Japanese pitch-accent perception of noise-vocoded sine-wave speech. The 183rd meeting of the Acoustical Society of America, Nashville, Tennessee USA.

◎室谷章子	学会発表	室谷章子（2022）「日本人学習者の英語習得の問題点について」，2022 年度実用英語学会 195 回研究会，早稲田大学

整理番号　2022-08

研究課題　管理会計におけるリスク分担機能の研究

研究業績の概要・成果発表等

各研究者はそれぞれの上記の研究課題について分担し研究を進めるとともに、研究および分析に必要なデータを収集した。他方で、先行研究を丹念にレビューし、理論的考察を行った。また、必要に応じて質問書調査を実施した。そして、得られた結果を、著書、論文、学会を通じて発表した。

（1）論文・著書

研究所員名	業績種別（論文・単著・共著・研究ノート等）	発表論文名・著書名　等
※鈴木孝則	共著	鈴木孝則・佐藤紘光ほか（2022）『会計情報のモデル分析Ⅱ』国元書房（全 10 章）
☆大鹿智基	単著	非財務情報の意思決定有用性－情報利用者による企業価値とサステナビリティの評価－
☆荻原啓佑	論文	新井康平，町田遼太，荻原啓佑，尻無濱芳崇，病院における費用・資産効率としての経営者能力スコア：公立病院における検証，原価計算
	論文	町田遼太，牧野功樹，新井康平，荻原啓佑，妹尾剛好，管理会計研究における QDA（Qualitative Data Analysis）の実態－文献分析による検討
	共著	加登豊，吉田栄介，新井康平，実務に活かす管理会計のエビデンス，中央経済社，全 34 章　荻原啓佑，20 章「目標設定－達成が困難な目標と容易な目標の使い分け」，185-192 2022
	論文	荻原啓佑，目標原価の設定方式の変更がコミットメントに与える影響－加算方式から控除方式への変更に焦点を当てて－，管理会計学 31 巻 1 号掲載予定　2023
☆清水信匡	共著	清水信匡・小菅貴行・牧野功樹・新井康平　2022.「投資経済性評価とマネジメントプロセスの実態調査」『会計科学』2022(3) : 1-5.
◎秋山　盛	共著	谷守正行編著，『サブスクリプションの収益管理と企業価値評価』，金融財政事情研究会，秋山盛，第 5 章「投資家にとってのサブスクリプション」pp.149-217，2022，全 5 章.
	論文	秋山盛，「サステナブル社会実現のための金融機関内コントロール：特定業種への投融資状況の管理手法」『東京経営短期大学紀要』第 31 巻，東京経営短期大学，ページ未確定，2023 年
◎庵谷治男	論文	庵谷治男，制度論に基づく管理会計変化研究の展望－行為者の視点を手掛かりに－，経営論集第 100 号，東洋大学，近刊
	論文	庵谷治男，管理会計導入プロセスにみる管理会計知識の移転－当事者の吸収能力および普及能力に基づく知識共創プロセス－，メルコ管理会計研究第 14 巻，近刊
◎金子良太	共著	金子良太，非営利法人の税務論点，中央経済社，23-40 頁・241-254 頁　2022
◎古賀健太郎	共著	Ahn, S. W., J. H. Hyun, K. Koga, and J. Y. Shin. When and where does the tournament prize matter? Contemporary Accounting Research <2nd round review>.
◎野坂和夫	論文	野坂和夫，多種多様な暗号資産に応じた所得区分該当性の探究－支払手段の視点からの雑所得または譲渡所得にすべきかの理論分析－，会計プログレス第 23 号，p.15-33 2022

◎渡邊直人	論文	渡邊直人，複数目標の同時追求を支援する BSC の利用方法－文献調査に基づく検討－，医療バランスト・スコアカード研究 18 (1-2)，pp.43-48 2022
○小澤圭都	論文	小澤圭都，複式簿記の代数学的モデルに基づくキャッシュ・フロー計算書の作成方法，商学研究科紀要第 96 号，早稲田大学大学院商学研究科，2023 (forthcoming)

（２）学会発表

研究所員名	業績種別	発表タイトル・発表者名　等
☆荻原啓佑	学会発表	渡邊直人，荻原啓佑（2022）「自律的・統制的動機づけに対する目標設定要因の影響」日本医療バランスト・スコアカード研究学会 第 19 回学術総会
☆清水信匡	学会発表	小菅貴行，牧野功樹，新井康平，清水信匡（2022）「投資経済性技法の採用要因－企業戦略と投資案件のタイプに着目して」，2022 年度日本原価計算研究学会全国大会，日本大学
	学会発表	清水信匡，田村晶子，矢内一利（2022），ゾンビ企業の組織的特徴　マイルズスノーの戦略論の観点から，2022 年度日本管理会計学会全国大会，明治大学
◎秋山　盛	学会発表	秋山盛（2022）「金融機関システム運用におけるオペレーショナル・レジリエンスの適用可能性：機会損失の見える化による組織内動機づけ」，日本管理会計学会 2022 年度年次全国大会，明治大学.
	学会発表	秋山盛（2022）「地域金融機関における統合報告書の組織内活用：地域社会との共生理念浸透をめざした戦略マネジメント・システム」，日本原価計算研究学会第 48 回全国大会，日本大学.
	学会発表	秋山盛（2022）「アンバンドリング理論からみた最近の金融機関動向」，AW21 研究会招待報告，福岡大学.
◎庵谷治男	学会発表	庵谷治男（2022）「制度論に基づく管理会計変化研究の展望－行為者の視点を手掛かりに－」，2022 年度日本管理会計学会年次大会，明治大学
◎岡田慎太郎	学会発表	「コーポレートガバナンスが金融商品の公正価値の評価に与える影響」，日本経済会計学会第 6 回ワークショップ
◎金子良太	学会発表	金子良太（2022）「非営利組織におけるクラウドファンディングやファンドレイジング費用の会計的課題－」2022 年度非営利法人研究学会全国大会，國學院大學
◎神山直規	セミナー発表	神山直規（2022）「長期請負契約と収益認識」，齋藤ゼミ，横浜国立大学
◎古賀健太郎	セミナー発表	Kentaro Koga (2022) When and where does the tournament prize matter? 名古屋商科大学 Finance Seminar
	セミナー発表	Kentaro Koga (2022) When and where does the tournament prize matter? 名古屋商科大学 RD 会
◎須藤時男	学会発表	須藤時男（2022）「ファミリービジネスの資産保有特性に関する考察」2022 年度　第 3 回　日本経済会計学会・秋季大会
◎野坂和夫	学会発表	野坂和夫・佐野哲哉・松田和久・小泉友香（2022）「経営戦略としての税負担削減行動と CSR 活動の関連性－税負担削減行動による CSR 活動の誘発－」，第 81 回全国大会自由論題報告，日本会計研究学会

	学会発表	野坂和夫（2022）「退職給付に係る負債・退職給付費用と CSR 活動の経営戦略関連性の実証分析－退職給付に係る負債・退職給付費用による CSR 活動の誘発－」，2022 年度年次全国大会自由論題報告，日本管理会計学会
	学会発表	野坂和夫（2022）「退職給付に係る負債・退職給付費用と監査報酬の関連性の実証分析－退職給付に係る負債・退職給付費用の経理コスト・監査コストが監査報酬に与える影響－」，第 48 回全国大会自由論題報告，日本原価計算研究学会
	学会発表	野坂和夫（2022）「退職給付に係る負債・退職給付費用と税負担削減行動の経営戦略関連性の実証分析－退職給付に係る負債・退職給付費用による税負担削減行動の誘発－」，第 34 回全国大会，税務会計研究学会
◎矢内一利	学会発表	矢内一利（2022）「戦略タイプと利益目標のラチェッティングとの関係の検証」，日本管理会計学会 2022 年度年次全国大会，明治大学
	学会発表	清水信匡・田村晶子・矢内一利（2022）「ゾンビ企業の組織的特徴 マイルズスノー戦略論の観点から」，日本管理会計学会 2022 年度年次全国大会，明治大学
◎渡邊直人	学会発表	渡邊直人・荻原啓佑（2022）「自律的・統制的動機づけに対する目標設定要因の影響」，第 19 回日本医療バランスト・スコアカード研究学会学術総会
○大塚慎太郎	学会発表	大塚慎太郎（2022）「企業の持続的成長と経営者能力の関係」，2022 年度日本経済会計学会第 3 回秋季大会
○小澤圭都	学会発表	小澤圭都（2022）「複式簿記における基本性質の代数学的証明：ブロックチェーンへの応用を念頭に」日本簿記学会第 38 回全国大会自由論題報告，大阪産業大学

整理番号　2022-09

研究課題　国際ビジネス戦略の新展開：理論と実証分析の最前線

研究業績の概要・成果発表等

終息しないコロナ禍の影響で、対面での研究会開催が難しい１年であったが、メール等を通じて連絡を取り合い、課題の研究に関して研究員間で有意義な意見交換をすることができた。その成果は 19 本の論文や著書に結実し、さらに 14 回の学会やセミナー発表を実施することができた。さらに科研費も継続中を含め、7 つを獲得している。来年度はさらに研究成果と学会発表を積極的に進め、科研費をはじめとする外部資金を獲得できるように努力する。

（１）論文・著書

研究所員名	業績種別（論文・単著・共著・研究ノート等）	発表論文名・著書名　等
※横田一彦	論文	Kazuhiko Yokota, “Competitiveness in Trade in Services: A Comparative Analysis of Japan, China, and the U.S.” (2023). Chapter 2 in Cooperation, Competition, and Integration in Asia-Pacific, ed. Peking University-Waseda University Joint Research Initiative, Waseda University Press, 30-45.
☆小田部正明	共著	Masaaki Kotabe and Kristiaan Helsen, Global Marketing Management, Hoboken, NJ: John Wiley & Sons, Inc., 9th ed., September 2022, 18 chapters, 800 pages.
	論文	Oliva, Fábio, Andrei Carlos Torresani Paza, Jefferson Luiz Bution, Masaaki Kotabe, Peter Kelle, Eduardo Pinheiro Gondim de Vasconcellos, Celso Claudio de Hildebrand e Grisi, Martinho Isnard Ribeiro de Almeida, and Adalberto Americo Fischmann, “A Model to Analyze the Knowledge Management Risks in Open Innovation: Proposition and Application with the Case of GOL Airlines,” Journal of Knowledge Management, 26 (3), March 2022, 681-721. https://doi.org/10.1108/JKM-11-2020-0809
	論文	Feliciano-Cestero, María M., Nisreen Ameen, Masaaki Kotabe, Justin Paul, and Mario Signoret, “ Is digital transformation threatened? A systematic literature review of the factors influencing firms’ digital transformation and internationalization” Journal of Business Research, 157 (March), 2023, https://doi.org/10.1016/j.jbusres.2022.113546.
	論文	Couto, Marcelo Henrique Gomes, Fábio Lotti Oliva, Manlio Del Giudice, Masaaki Kotabe, Tachia Chin, and Peter Kelle, “Life Cycle Analysis of Brazilian Startups: Characteristics, Intellectual Capital, Agents and Associated Risks,” Journal of Intellectual Capital, 23 (6), September 2022, 1348-1378. https://doi.org/10.1108/JIC-01-2021-0005
	論文	Cha, Hongryol, Masaaki Kotabe, and Jie Wu, “Reshaping Internationalization Strategy and Control for Global E-Commerce and Digital Transactions: A Hayekian Perspective,” Management International Review, November 2022, https://doi.org/10.1007/s11575-022-00494-x
	論文	Bresciani, Stefano, Alberto Ferraris, Gabriele Santoro, and Masaaki Kotabe, “Opening up the black box on digitalization and agility: Key drivers and main outcomes” Technological Forecasting and Social Change, 178, May 2022. https://doi.org/10.1016/j.techfore.2022.121567
	論文	Oliva, Fábio Lotti, Pedro Marins Freire Teberga, Lucas Israel Oliveira Testi, Masaaki Kotabe, Manlio Del Giudice, Peter Kelle, and Miguel Pina Cunha, “ Risks and critical success factors in the internationalization of

		born global startups of industry 4.0: A social, environmental, economic, and institutional analysis" Technological Forecast & Social Change, 175, February 2022. https://doi.org/10.1016/j.techfore.2021.121346
☆谷口真美	論文	谷口真美，違いは何か? 組織における分離（距離），種類，格差としての多様性の構成概念，日本労働研究雑誌（特集：現在の労働問題を考える上で改めて読んでおきたい文献），労働政策研究・研修機構，ページ数未定，2023 年 4 月号
	論文	谷口真美，大学職員の多様性をいかす，大学職員論叢 第 11 号，ページ数未定，2023 年 3 月号
	共著	Naito, C & Taniguchi, M. (2023), Change and continuity of career ecosystems for a parent company and foreign subsidiary in Japan, In 'Understanding Careers around the Globe' (Mayrhofer, W., Briscoe, J., Dickmann,M., Hall, D.T. and Parry, E. eds), Edward Elgar Publishing
☆長谷川信次	共著	Hasegawa, Shinji, "BoP Businesses of Multinational Corporations and Sustainability", in Urata et al. (eds.), Sustainable Development Disciplines for Society, Springer, pp.201-218, 2022
◎桑名義晴	共著	桑名義晴・斎藤泰浩・山本崇雄・竹之内玲子，グローバル成長と発展への経営：日本企業の再生と挑戦（2022），文眞堂，全 9 章，桑名義晴 第 1 章 日本企業のグローバル戦略の展開と新たな挑戦課題，1-22，第 2 章 多国籍企業のイノベーションと国際提携の進展，23-49，終章 日本の多国籍企業の新たな成長と発展に向けて，193-215
◎髙井 透	共著	高井透・内田亨「養殖事業のイノベーションと新規事業創造：陸上養殖事業の事例を中心に」『情報経営』日本情報経営学会誌 42 (2), p.38-50, 2022
	単著	高井透，ボーングローバル企業の戦略を多角的視点で捉える，研究開発リーダー，技術情報協会（編），第 19 巻第 3 号，P.67-77, 2022
	単著	高井透，グローバル化の壁を乗り越え飛躍する：ボーン・グローバル企業とボーン・アゲイン・グローバル企業の戦略行研究開発リーダー，技術情報協会（編），第 18 巻第 10 号，p.68-71, 2022
◎竹之内玲子	論文	Horaguchi, H., Takenouchi,R., "Business Continuity for Institutional Product Development: Comparative Study of Honda Business Jet and Mitsubishi Regional Jet", Annual Conference of Academy of International Business proceedings paper, p.1-25, 2022
◎三輪祥宏	論文	三輪祥宏，日本のホスピタリティ・ツーリズム産業におけるイノベーションに関する一考察 (2), Journal of Hospitality and Tourism Vol.17 No.1，明海大学ホスピタリティ・ツーリズム学部，pp.1-10
○リュウ ジンチェン	論文	Liu Jinchen, "Evolution of the International Vehicle Trade Network from 1999-2019." (2023). Chapter 5 in Cooperation, Competition, and Integration in Asia-Pacific, ed. Peking University-Waseda University Joint Research Initiative, Waseda University Press, 80-92.

（2）学会発表

研究所員名	業績種別	発表タイトル・発表者名 等
※横田一彦	学会発表	Kazuhiko Yokota, 2022, August 22, Sunway University, Kuala Lumpur. Malaysia, The 17th International Convention of the East Asian Economic Association. "The Impact of Offshoring on Wages and Employment in Japan and Korea."
	セミナー発表	Kazuhiko Yokota, September 12, 2022, Hope College, Holland, MI. U.S.A. "The Impact of Offshoring on Wages and Employment in Japan and Korea." Invited Seminar.

☆谷口真美	学会発表	Briscoe, J., Cotton, R., Michel, E., Taniguchi, M. et al, Career Meaning as Mediator Between Career Shocks, Social Support and Career Management, FRAMING CAREERS THROUGH THE LENS OF A PANDEMIC: LESSONS FROM A MULTI-COUNTRY PROJECT, Academy of Management 2022 Annual Meeting, Aug 2023, Seattle USA.
☆長谷川信次	学会発表	Hasegawa, Rei; Hasegawa, Shinji (2022), "Analysis of Turnover Intention of Japanese Female Workers: Comparison by Rank and Firm Type", 48th EIBA Annual Conference, Norwegian Business School.
◎桑名義晴	学会発表	桑名義晴（2022）「国際ビジネスにおけるビジネス・エコシステムの優位性：多国籍企業のイノベーションの視点から」，2022 年度日本貿易学会全国大会，富山大学
	学会発表	桑名義晴（2022）「日本における国際ビジネス研究の進展と課題：過去，現在，そして未来へ」，2022 年度国際ビジネス研究学会年次大会，九州大学
◎竹之内秀行	学会発表	竹之内秀行，石井昌宏，高橋意智郎（2022）「海外進出のサドル現象」国際ビジネス研究学会　第 16 回中四国部会
	学会発表	Takenouchi, H, Ishii, M, Takahashi, I (2022) "Isomorphism Pressure: Saddles in Foreign Direct Investment," The 6th World Conference on Production and Operations Management
	学会発表	竹之内秀行，高橋意智郎，佐藤幸志（2022）「日本企業の海外進出と国際経験のタイプ」国際ビジネス研究学会第 29 回年次大会
◎竹之内玲子	学会発表	Horaguchi, H., Gargeya,V.B, Takenouchi, R., (2022) "Sustaining Organizainal Excellence with Leadership:The Case of Honda jet," 2022 Annual Conference of The Production and Operations Management Society, Virtual
	学会発表	Horaguchi, H., Takenouchi, R., Gargeya, V.B, (2022) "Global Product Development and Leadership: Long-Term Commitment and Corporate Governance of Honda for its Wholly Owned Subsidiary," 2022 Annual Conference of The Association of Japanese Business Studies,Virtual
	学会発表	Horaguchi, H., Takenouchi,R., (2022) "Business Continuity for Institutional Product Development: Comparative Study of Honda Business Jet and Mitsubishi Regional Jet", 2022 Annual Conference of Academy of International Business, Virtual
◎長谷川礼	学会発表	Rei Hasegawa, Shinji Hasegawa (2022) "WLB vs. Promotion as Success" 48th EIBA Annual Conference, Norwegian Business School, Oslo
◎三輪祥宏	学会発表	三輪祥宏（2022）「デジタルホスピタリティ概念の探究に向けた一考察」，日本ホスピタリティ・マネジメント学会第 30 回全国大会，熊本学園大学

整理番号　2022-10

研究課題　グローバライゼーションと財務会計研究

研究業績の概要・成果発表等

コロナ禍により今年度の活動は当初予定していた海外からの研究者 2 名の招聘を断念せざるを得ず、オンラインによる研究会 1 回の開催(会計研究所と鈴木孝則分科会との共催)にとどまった。研究会での報告内容は以下の通りである。

荻原啓佑（早稲田大学商学部助手）
「原価企画における目標原価の困難度が原価低減業績に与える影響―レゴ実験を用いた目標設定理論の検証―」

町田遼太（東京都立大学経済経営学部助教）
「脱予算経営のコンフィギュレーションおよびメカニズムに関する実証的分析」

（1）論文・著書

研究所員名	業績種別（論文･単著･共著･研究ノート等）	発表論文名・著書名　等
☆秋葉賢一	論文	「償却原価の適用問題：IASB の適用後レビューを受けて」『Disclosure & IR』21 号（ディスクロージャー&IR 総合研究所），pp 38-44，2022 年 5 月
	研究ノート	「気になる論点 (310)-(328)」『週刊経営財務』（税務研究会）3551 号-3589 号　計 76 頁，2022 年
☆大塚忠義	共著	大塚忠義・冨樫充・谷口豊「公的介護給付費の妥当性評価に係る考察」2023.3. 生活経済研究第 57 巻 生活経済学会
	共著	谷口豊，大塚忠義「介護不安と保険加入行動に係る心理的距離の測定」2022.9. 生命保険論集　第 220 号　pp313-335　生命保険文化センター
☆奥村雅史	論文	奥村雅史「情報関連技術と企業会計」，特別委員会最終報告書，日本会計研究学会，p.7-23
	著書監修	奥村雅史ほか 16 名　特別委員会最終報告書『情報関連技術の進展と財務会計に関する研究』，日本会計研究学会，14 章
	論文	張瀟月，焦乙玲，金奕群，奥村雅史「利益訂正に関連するショートセラーの投資行動の研究」，『産業経理』，産業経理協会，p.87-100
		Al Bhimani 著，奥村雅史訳『会計不全：デジタライゼーションは会計をどう変えるか』中央経済社　8 章
☆関根愛子	論文	関根愛子，井口譲二　IFRS 諮問会議（2022 年 4 月）会議概要，会計・監査ジャーナル，日本公認会計士協会編 34(8)，P98-100, 2022
	論文	関根愛子　IFRS 諮問会議（2022 年 9 月）会議概要，会計・監査ジャーナル，日本公認会計士協会編 35(2)，P37-39, 2023

	論文	関根愛子　国際評価基準審議会（IVSC）年次総会等報告，会計・監査ジャーナル，日本公認会計士協会編 35(2), P64-66, 2023
☆野村俊一	論文	Yabe Suguru, Hamada Yohei, Fukuchi Rina, Nomura Shunichi, Shigematsu Norio, Kiguchi Tsutomu, Ueki Kenta, Quantitative logging data clustering with hidden Markov model to assist log unit classification, Earth, Planets and Space, Vol.74, pp.1-21, 2022
	論文	Atsumori Takahashi, Nomura Shunichi, Automatic segmentation of insurance rating classes under ordinal constraints via group fused lasso, Asia-Pacific Journal of Risk and Insurance, pp.1-30, 2022 doi:10.1515/apjri-2022-0012
	論文	Ide Satoshi, Nomura Shunichi, Forecasting tectonic tremor activity using a renewal process model, Progress in Earth and Planetary Science, 9:67, pp.1-21, 2022
☆吉野真治	論文	吉野真治　費用：発生主義および費用配分の原則の有効性，企業会計 75 (1)，中央経済社，p.46-53, 2023
◎安　珠希	共著	安珠希　第 2 章「報告利益の操作と経営者報酬：多期間エイジェンシー・モデルによる均衡分析」解題（pp.41-67）『会計情報のモデル分析II』（全 239 頁）早稲田大学会計研究所・会計研究叢書第 5 号，国元書房　2022.4
	共著	安珠希　第 1 部第 2 章「訂正報告書の提出理由における不適切会計の実態」（pp.9-34）『企業の不適切会計－九州の事例研究－』（全 142 頁）九州産業大学産業経営研究所・研究叢書第 12 号，九州大学出版会　2023.3
	共著	安珠希　第 1 部第 3 章「何が不適切会計を引き起こすのか」（pp.35-49）『企業の不適切会計－九州の事例研究－』（全 142 頁）九州産業大学産業経営研究所・研究叢書第 12 号，九州大学出版会　2023.3
	共著	安珠希　第 1 部第 1 章「不適切会計の概念と調査対象」（pp.3-8）『企業の不適切会計－九州の事例研究－』（全 142 頁）九州産業大学産業経営研究所・研究叢書第 12 号，九州大学出版会　2023.3
◎池村恵一	論文	池村恵一　1990 年代から 2000 年代前半のわが国における株式報酬制度の展開，流通経済大学論集 57 (3) pp.1-14, 2023.
◎石内孔治	論文	石内孔治　新しい実数分析による財務状況の事例研究，日本経大論集第 52 巻第 1 号，日本経済大学，掲載予定
◎井出健二郎	単著	井出健二郎　会計とリスク，日本社会関連会計学会誌第 34 号，日本社会関連会計学会，p.53-58, 2023
◎栗城綾子	論文	栗城綾子　期間衡平性をめぐる一考察－米国公会計における規制事業取引の収益認識を題材として－，会計検査研究 (66)，会計検査院，p.47-60，2022
◎辻山栄子	論文	辻山栄子　「特集『企業会計原則』再考－実現主義の普遍性」，『企業会計』中央経済社，第 75 巻 1 号，p.36-45, 2023
	論文	辻山栄子「IFRS 利益の深層」『企業会計』，中央経済社，第 74 巻 11 号，p.12-19, 2022
◎藤田晶子	論文	藤田晶子　無形資産情報の開示とその課題，Disclosure & IR 23 巻，宝印刷株式会社，p.38-43, 2022
◎藻利衣恵	論文	藻利衣恵　株式報酬費用の期間配分『高崎経済大学論集』64(3)，高崎経済大学経済学会，p.89-114, 2022

	共著	藻利衣恵　第 5 章「報酬の凸性，会計操作とプロジェクトの継続」解題，佐藤紘光・鈴木孝則編著国『会計情報のモデル分析 2』，国元書房，2022
◎山下　奨	論文	山下奨　IAS 第 19 号におけるノンリサイクリング処理のルーツと意味，産業経理第 82 巻第 1 号，一般財団法人産業経理協会，pp.71-80, 2022

（２）学会発表

研究所員名	業績種別	発表タイトル・発表者名　等
☆大塚忠義	学会発表	大塚忠義（2022）「公的介護給付費の妥当性評価に係る考察」生活経済学会　第 38 回研究大会　オンライン大会
☆奥村雅史	学会発表	奥村雅史ほか 16 名（2022）「情報関連技術の進展と財務会計に関する研究」，第 81 回日本会計研究学会全国大会，東京大学
☆関根愛子	セミナー発表	Aiko Sekine (2022) “Challenges and opportunities of Accounting Practitioners in the Era of Digitalization”, Symposium hosted by Center for Accounting Studies of Xiamen University and Department of Accounting, School of Management, Xiamen University
☆野村俊一	学会発表	野村俊一（2022）プレート間非地震性すべり速度の時空間変化を考慮した繰り返し地震の短期予測，日本地震学会 2022 年度秋季大会，北海道立道民活動センター「かでる２・７」，北海道札幌市，2022 年 10 月 25 日，招待講演.
◎井手健二	セミナー発表	羽根佳祐，井手健二，松本勇樹（2022）「生命保険会社におけるヘッジ会計情報に関する検討」生命保険会計研究会，2022 年第 2 回
◎井出健二郎	学会発表	井出健二郎（2022）「日本赤十字社血液事業の経営分析」，2022 年度日本血液事業学会年次大会，神戸国際会議場
◎髙橋秀至	学会発表	高橋秀至（2022）「租税法律主義と違憲立法審査」，第 430 回日本税法学会九州地区研究会，福岡県弁護士会館
◎鳥羽至英	学会発表	鳥羽至英（2022）「監査学，監査史，そして受託責任」，2022 年度日本会計史学会第 41 回大会，東京経済大学

整理番号　2022-11

研究課題　イノベーション創出のメカニズムについてのマルチレベル分析

研究業績の概要・成果発表等

イノベーション創出について、制度レベル、組織レベル、チーム・個人レベルでの研究を各自行い、学会発表ならびに論文・書籍として添付のように発表し、研究会も多数開催した。

（1）論文・著書

研究所員名	業績種別（論文・単著・共著・研究ノート等）	発表論文名・著書名　等
※山野井順一	共著	『ファミリー企業の戦略原理』　日本経済新聞社　pp.1-240. 総章数 8 章
☆坂野友昭	論文	坂野友昭，小西由樹子，金融教育が金融リテラシーと金融行動に与える影響－メタアナリシスを中心とした海外文献のレビュー－，パーソナルファイナンス研究 No.9，パーソナルファイナンス学会，p.1-16，2023 年 3 月
☆清水　洋	単著	『アントレプレナーシップ』有斐閣，2022 年，pp.1-361，総章数 15
	単著	『イノベーション』有斐閣，2022 年，pp.1-410，総章数 15
	単著	『イノベーションの考え方』日本経済新聞社，pp.1-272，総章数 7
☆谷本寛治	共著	Corporate Social Responsibility and Responsible Leadership, in M. John and J. Segalas (eds.), A Noble Education: Sustainability Knowledge and Understanding in the 21st Century, Taylor Francis. (forthcoming)
	単著	『わたしたちの暮らしは世界とつながっている－持続可能な地球社会をつくる』千倉書房
☆藤田　誠	論文	藤田誠，戦略提携研究の現状と方向性，早稲田商学，早稲田商学同攻会，464 号，pp.1-31，2022
☆マレン・ジョエル	論文	Malen, J. (2022). Moving the Goalposts: Aspiration Reoperationalization in Response to Failure to Achieve Environmental Performance Targets. *Academy of Management Discoveries, 8*(3), 357–383. https://doi.org/10.5465/amd.2020.0245
☆三橋　平	共著	Mitsuhashi, Takashi, Joji Tokugawa, and Hitoshi Mitsuhashi. 2022. Low-cost feedback program for reducing the door-to-computed tomography time. Cerebrovascular Diseases Extra, 12: 63-71.
	共著	Mitsuhashi, Takashi, Joji Tokugawa, and Hitoshi Mitsuhashi. 2022. Long-term evaluation of the COVID-19 pandemic impact on acute stroke management: An analysis of the 21-month data from a medical facility in Tokyo. Acta Neurologica Belgica. https://link.springer.com/article/10.1007/s13760-
	共著	Nagayama, Susumu and Hitoshi Mitsuhashi. 2022. Explosive and implosive root concepts: An analysis of music moods rooted by two influential rap artists. PLOS ONE, 17(7): e0270648.
☆梁取美夫	論文	Nikookar, E., and Yanadori, Y. 2022. Forming post-COVID supply chains: does supply chain managers' social network affect resilience? International Journal of Physical Distribution & Logistics Management, 52: 538-566. https://doi.org/10.1108/IJPDLM-05-2021-0167.
◎足代訓史	論文	足代訓史・木川大輔，成熟プラットフォームビジネスの競争力の促進・阻害要因－文献レビューに基づく理論的研究－，赤門マネジメント・レビュー，21(4)，p.105-138，2022

	論文	足代訓史･木川大輔, CGM 型プラットフォームにおける規模追求がもたらす慣性，日本経営学会誌，(51)，p.3-17，2022
◎石毛昭範	論文	石毛昭範，企業におけるワークルール遵守強化に影響を及ぼしうる国際的基準・ルールの可能性，拓殖大学経営経理研究第 122 号，拓殖大学経営経理研究所，pp.1-9，2022
◎伊藤泰生	論文	伊藤泰生，Organizational Ambidexterity and Firm Performance: Effect of Two Types of Exploitation in Japanese Video Game Industry, Journal of Digital Life, 2(7), 2022
◎大沼沙樹	論文	大沼沙樹・秋保亮太・村瀬俊朗，チーム認知とチームの創造性ートランザクティブ・メモリー・システムと共有メンタルモデルの整理ー，組織論レビューIII，組織学会，pp.177-195, 2022
◎小沢和彦	論文	小沢和彦 (forthcoming)「組織変革研究の現状と研究課題」『経営教育研究』
◎川崎千晶	共著	経営戦略学会編，キーワードからみる経営戦略ハンドブック，同文舘出版，2023.3（予定）
◎金　倫廷	共著	Furuta Shunsuke, Yunjeong KIM & Hiroshi OTSUKI, British Academy of Management BAM2022 Conference Proceedings, British Academy of Management, pp.1-22, 2022.
◎潜道文子	共著	日本経営倫理学会編（2023），経営倫理入門ーサステナビリティ経営をめざしてー，文眞堂，全 34 章　潜道文子，第 I 部　学術的アプローチ編　第 4 章「経営倫理と CSR・CSVー企業の役割を再考するー，40-49　潜道文子，「まえがき」，i-ii
	論文	李燕，潜道文子（2023）「制度的実践による CSR の制度化：サラヤ株式会社の事例研究」『組織科学』白桃書房，56（3），29-42
◎永山　晋	論文	Nagayama, S., & Mitsuhashi, H. (2022). Explosive and implosive root concepts: An analysis of music moods rooted by two influential rap artists. PLOS ONE, 17(7), e0270648. https://doi.org/10.1371/journal.pone.0270648
	論文	Smith, R., Varshney, L. R., Nagayama, S., Kazama, M., Kitagawa, T., Managi, S., & Ishikawa, Y., 2022, A computational neuroscience perspective on subjective wellbeing within the active inference framework, International Journal of Wellbeing, 12(4): 102-131. DOI: https://doi.org/10.5502/ijw.v12i4.2659
◎日野健太	論文	日野健太，勤務先の取り組みと従業員の CSR への理解：積極・消極的態度を測定する尺度化の試みを踏まえて，駒大経営研究第 54 巻 3･4 号
◎古田成志	共著	組織学会編（2022），組織論レビューIV：マクロ組織と環境のダイナミクス，白桃書房，全 8 章　古田成志，4 ラディカルな組織変革における研究の発展過程，91-110.
	論文	古田成志（2023），COVID-19 の影響下における組織変革と経営環境ーテキストマイニングによる分析を中心とした考察ー，中京学院大学紀要, forthcoming
◎万　　涛	共著	万涛，赵源．团队领导在冲突及冲突管理中的作用研究 [J]．科技管理研究，2022，21：140-143
○高坂啓介	共著	経営戦略学会編，キーワードからみる経営戦略ハンドブック，同文舘，2023.3
○鳥田友起	論文	鳥田友起，コーポレート・ガバナンスの収斂に関する研究,産業経営第 54 号，早稲田大学産業経営研究所，p.47-69，2022
	論文	Torida Yuki, You are coming home: when efficient adoption of corporate governance practices is overturned, 早稲田商学 464 号，早稲田大学商学同攻会

○矢島猶雅	論文	矢島猶雅，定行泰甫，住宅の心理的瑕疵に関する投稿情報の実態把握，日本建築学会技術報告集第 69 号 28 巻，日本建築学会，pp. 976-981, 2022
	論文	Naonari Yajima, Toshi H. Arimura, Promoting energy efficiency in Japanese manufacturing industry through energy audits: Role of information provision, disclosure, target setting, inspection, reward, and organizational structure, Energy Economics, Vol. 114, 106253, 2022
	論文	孟瑶，矢島猶雅，有村俊秀，ごみ袋有料化による廃棄物減量及び分別促進効果に関する実証研究－リバウンド効果の再検証－，環境科学会誌第 35 巻 3 号，pp.137-145，2022
	研究ノート	河本真銘，矢島猶雅，有村俊秀，選択型実験による傘シェアリングサービス利用の要因分析，環境科学会誌，forthcoming，2022
	共著	矢島猶雅，有村俊秀，カーボンプライシングのフロンティア：カーボンニュートラル社会のための制度と技術，第 5 章「カーボンプライシング制度下で省エネ対策はどのように進んだか：埼玉県目標設定型排出量取引制度の事例から」，pp.81-96，2022，全 14 章
○吉澤昭人	論文	吉澤昭人，ダイバーシティとインクルージョンーKH コーダーによる新聞記事分析ー，千葉経済論叢，66 号，千葉経済大学，pp.205-220，2022
	論文	吉澤昭人，ダイバーシティに関わる新聞記事の分析（1）－KH コーダーによるアプローチー，千葉経済論叢，67 号，千葉経済大学，pp.93-106，2022

（２）学会発表

研究所員名	業績種別	発表タイトル・発表者名　等
※山野井順一	学会発表	Gomulya, D. M. and Yamanoi, J. 2022. Donation versus Dividend: Inter-Stakeholders' Competing Expectations. The 82nd Annual Meeting of the Academy of Management.
	学会発表	Kito, T., Murata, Y., Yamanoi, J., & Madhavan, R. 2022. Strategic Determinants of Decisions Not to Settle Patent Litigation: Replication and Extension of Somaya (2003). The 42nd Annual Conference of the Strategic Management Society, London.
☆三橋　平	学会発表	Mitsuhashi, Hitoshi and Naoki Yasuda. 2022. Path-dependent firm growth and the paradox of deep- ening expansion experiences. A p
◎伊藤泰生	学会発表	伊藤泰生（2022）「両利きにおける 2 つの活用と業績の関係性－日本のゲーム産業における実証分析－」，2022 年度組織学会研究発表大会，東北大学
◎大月博司	学会発表	Shunsuke Furuta, KIM Yunjeong, Hiroshi Otsuki, 2022, "Exploring the role of history in the institutional maintenance process: Case of the Godzilla movie in Japan", 2022, British Academy of Management, university of manchester
◎大沼沙樹	学会発表	王ヘキサン・大沼沙樹・秋保亮太・村瀬俊朗，2022 10，外部環境に対する認知相違の発生メカニズムの探索－部門横断的チームでの検証－，経営行動科学学会第 25 回年次大会，名古屋大学オンライン開催
	学会発表	大沼沙樹，2022 6，知識探索におけるチーム認知の役割，日本経営学会関東部会シンポジウム，早稲田大学オンライン開催

◎小沢和彦	学会発表	Kuroki, M. and Ozawa, K. (2022) Organizational Aspiration and Earnings Management in Private Universities, The Accounting and Economic Association of Japan 39th @ Osaka University
	学会発表	小沢和彦（2022）「組織変革研究における環境適応」日本マネジメント学会（第 85 回）全国研究大会@法政大学
	セミナー発表	小沢和彦（2022）「組織変革と企業行動理論」商学会報告会@慶應義塾大学
◎カプツルキェヴィッチ アガタテレサ	学会発表	Kapturkiewicz Agata (2022)「Varieties of Entrepreneurial Ecosystems」, 2022 年度 MIRAI2.0 大会 (Research & Innovation Week 2022), Ito Campus, Kyushu University
◎金　倫廷	学会発表	Shunsuke FURUTA & Yunjeong KIM & Hiroshi OTSUKI, (British Academy of Management BAM2022 Conference), Manchester Business School
	学会発表	金倫廷（2022）「組織における公正の知覚がアイデンティフィケーションに与える影響」，経営戦略学会第 20 回大会，早稲田大学
	学会発表	金倫廷（2022）「関係アイデンティフィケーションの先行要因に関する実証研究」，日本経営学会第 96 回大会，明治大学
◎潜道文子	学会発表	潜道文子（2022）「「責任」を超えた社会的イノベーションがもたらす企業の価値創造：アクター・ネットワーク理論からのアプローチ」日本経営倫理学会関西部会研究発表会，立命館大学
◎日野健太	学会発表	日野健太（2022）「リーダーシップのダークサイド」2022 年度日本経営学会全国大会，明治大学
◎古田成志	学会発表	古田成志（2022），COVID-19 の影響下における経営環境と組織変革の関係－テキストマイニングによる試論的考察－，日本経営学会第 96 回大会，明治大学（オンライン）
○高坂啓介	学会発表	高坂啓介（2022）「チームにおける LMX 多様性と創造性に関する研究」，2022 年度経営戦略学会研究会，早稲田大学
○鳥田友起	学会発表	Torida Yuki (2022)「You are coming home: when efficient adoption of corporate governance practices is overturned」, 36th British Academy of Management Annual Conference, University of Manchester (with Omuro Ryosuke)
○古田駿輔	学会発表	Shunsuke Furuta, KIM Yunjeong, Hiroshi Otsuki, 2022, “Exploring the role of history in the institutional maintenance process: Case of the Godzilla movie in Japan”, 2022, British Academy of Management, university of manchester
○矢島猶雅	学会発表	矢島猶雅，定行泰甫，（2022）「心理的瑕疵物件の立地分析－「大島てる」データを活用して－」，環境経済・政策学会 2022 年大会，オンライン
	学会発表	矢島猶雅，（2022）「グリーン調達方針による学習効果と家庭での消費行動の関係性」，環境科学会 2022 年会，オンライン

整理番号　2022-12

研究課題　社会経済システムの局所化に関する経済学理論とその応用

研究業績の概要・成果発表等

研究会の開催

1. 4月15日（金）　青山　知仁（早稲田大学　商学部　講師）
   Sequential Subjective Learning
2. 5月13日（金）　永島　　優（早稲田大学　高等研究所　講師）
   Abortion Legalization and Adolescent Consequences among Females in the Developing World
3. 5月27日（金）　赤星　　立（南山大学　経済学部　講師）
   Characterization of the family of counter domination solutions in decision making under multiple criteria
4. 6月10日（金）　富　　蓉（早稲田大学　商学部　講師）
   In Utero Exposure to Radiation Fear and Birth Outcomes: Evidence from Fukushima Nuclear Power Plant Accident
5. 6月24日（金）　Ying Yao（アジア成長研究所　上級研究員）
   Restricting the Availability of Cigarettes Reduces Smoking
6. 7月29日（金）　Yichen(Joshua) Shen（神奈川県立保健福祉大学　Assistant Professor）
   Does College Education Make Us Act Healthier? Evidence from a Japanese Superistition
7. 12月16日（金）　相場　大樹（早稲田大学　商学部　講師）
   Cryptocurrency Bubbles and Costly Mining
8. 1月20日（金）　潘　　健民（國立政治大學　副教授）
   Client Firm Disclosure Quality and Auditor Reputation

（1）論文・著書

研究所員名	業績種別（論文・単著・共著・研究ノート等）	発表論文名・著書名　等
☆片岡孝夫	論文	片岡孝夫（単著）「最適労働所得税制と就業支援政策」商学研究科紀要第 96 号　2023 年 3 月
☆久保克行	論文	久保克行，内ヶ﨑茂，飯干悟，橋本謙太郎　指名ガバナンス改革の方向性：2021 年サーベイ結果をもとに（上）指名ガバナンスの実態と改革のための提言 ビジネス法務　22 (4), 117-122, 2022-04
	論文	久保克行，内ヶ﨑茂，飯干悟，橋本謙太郎　指名ガバナンス改革の方向性：2021 年サーベイ結果をもとに（下）望ましい取締役会を実現するための理想の指名ガバナンスとは　ビジネス法務　2022-05 22 5 13
	論文	久保克行，内ヶ﨑茂，橋本謙太郎，岩田航　経営者報酬ガバナンス改革の方向性：2021 年サーベイ結果をもとに（第 2 回）望ましい報酬プラクティスを実現するための理想の報酬ガバナンスとは　企業会計 =Accounting 74 (7), 982-987, 2022-07
	論文	久保克行，内ヶ﨑茂，橋本謙太郎，岩田航　経営者報酬ガバナンス改革の方向性：2021 年サーベイ結果をもとに（第 1 回）経営者報酬の現在地と深化への提言企業会計 =Accounting 74 (6), 826-832, 2022-06

☆片山　東	論文	Hide-Fumi Yokoo, Toshi H. Arimura, Mriduchhanda Chattopadhyay, and Hajime Katayama (2022) Subjective risk belief function in the field: Evidence from cooking fuel choices and health in India, Journal of Development Economics, 161, 103000
	論文	Xiaogang Che, Hajime Katayama, and Peter Lee (2022) Product-Harm Crises and Spillover Effects: A Case Study of the Volkswagen Diesel Emissions Scandal in eBay Used Car Auction Markets, Journal of Marketing Research, First published online July 10, 2022
☆大門　毅	論文	大門（佐藤）毅，パンデミック経済の克服とプラットフォーム資本主義の可能性－「コロナ禍」恐慌を振り返る－，日仏経済学会 BULLETIN, p.1-11, 2022
	論文	アジアにおける中国の覇権と米国のインド太平洋戦略－アジアにおける日本の役割，ワセダアジアレビュー24 号，早稲田大学地域・地域間研究機構，p.45-50，2022
	論文	DAIMON-SATO, le conseguenze della pandemia da COVID-19: GEOPOLITICA IN ASIA ORIENTALE E PROSPETTIVE FUTURE, RELAZIONI INTERNAZIONALI E INTERNATIONAL POLITICAL ECONOMY DEL SUD-EST ASIATICO 7(1), p.16-20, 2022
☆笠島洋一	単著	【分担執筆】Kasajima, Y. “Designing Allocations Rules in Economic Problems,” Chapter 14 in S. Urata et al. (eds.), Sustainable Development Disciplines for Society, Sustainable Development Goals Series, Springer, pp.233-249, 2023.
☆毛利裕昭	論文	MOHRI H. , TAKESHITA J. , International Journal of Reliability, Quality and Safety Engineering, World Scientific,Vol. 29, No. 04, p.2141004(1-14), 2022
	論文	MOHRI H. , TAKESHITA J., Communications in Statistics - Theory and Methods, Taylor & Francis, p.1-11, (2022)
☆相場大樹	論文	Daiju Aiba, “Bank dependency on foreign funding and global liquidity shocks: The importance of US monetary policy for a developing country”, Journal of Asian Economics, 2023
◎橘　洋介	論文	橘洋介，MaaS はわが国の公共交通再生の旗手たり得るか，交通学研究第 66 号，日本交通学会
◎成川康男	論文	Yasuo Narukawa, Vicenc Torra, Aggregation for Hesitant Fuzzy sets, USB Proceedings The 19th International Conference on Modeling Decisions for Artificial Intelligence, 2022
○金　　鑫	論文	JIN XIN, Effects of Trade Unions on Workers’ Job Satisfaction: Evidence from China, The Chinese economy, p.1-26, 2022

（２）学会発表

研究所員名	業績種別	発表タイトル・発表者名　等
☆片岡孝夫	学会発表	高松慶裕，片岡孝夫，“Optimal labor income taxation and asset distribution”, 2022，日本経済学会　秋季大会，慶應義塾大学 in an economy with no insurance market and extensive labor supply responses
☆久保克行	学会発表	Katsuyuki Kubo (2022) “International and comparative employment relations: Japan” in British University Industrial Relations Association, June 22, University of Birmingham (online)
☆大門　毅	学会発表	DAIMON-SATO Takeshi (2022), Relfections on Trajectory of Abe Doctrine: China-Japan Conflicts and Complementarities in Foreign Aid Strategy 2000-2020, 2022 年度人間の安全保障学会全国大会，麗澤大学

	学会発表	DAIMON-SATO Takeshi (2022), Sexual orientation and gender identity in economic development of Asia-legal protection and economic realities in selected countries, Asian Law and Economics Association　全国大会，ソウル大学
	学会発表	大門（佐藤）毅（2022）「日中経済援助の相互補完性：仏語圏アフリカを事例として」，2022 年度日仏経済学会全国大会，明治大学
☆豊泉　洋	学会発表	豊泉洋，黒田達也，マイニングプールへのプールホッパー　攻撃と可逆マルコフ連鎖，日本オペレーションズリサーチ学会春季研究発表会，Zoom
	学会発表	豊泉洋，ポアソン過程のみで駆動される確率的制御問題と変分不等式の粘性解，日本オペレーションズリサーチ学会秋季研究発表会，2022
	学会発表	H. Toyoizumi, Continuum Neural Codings Give A Power-Law Eigenspectrum Decay, 待ち行列シンポジウム 2022, 早稲田大学
☆笠島洋一	学会発表	笠島洋一（2022）「Improvement of rural hospitals and its welfare consequences（赤星立氏，戸田学氏との共同研究）」，2022 年度数理経済学会研究集会，京都大学
☆富　　蓉	セミナー発表	Rong Fu (2022) Living arrangement and healthcare utilization in aging societies: an intercountry comparison between Sweden and Japan, MIRAI2.0 Ageing TEG Event, Online
	学会発表	Rong Fu (2022) The impact of contracting formal care on informal care provision and caregiver well-being: evidence from Japan, Irdes-Dauphine AHEPE 8th Workshop
	学会発表	Rong Fu (2022) Convergence and persistent contrasts in the determinants of living alone among working-age women in Sweden and Japan since the 1990s, European Population Conference 2022, Groningen
	学会発表	Rong Fu (2022) The impact of contracting formal care on informal care provision and caregiver well-being: evidence from Japan, EuHEA Conference 2022
	学会発表	Rong Fu (2022) “In Utero Exposure to Radiation Fear and Birth Outcome: Evidence from Fukushima Nuclear Power Plant Accident,” 6 January 2023, ASSA 2023 Annual Meeting
◎赤星　立	学会発表	Takashi Akahoshi (2022) “ Integration of multiple criteria: characterization of the family of counter domination solutions”
◎橘　洋介	学会発表	橘洋介（2022）「MaaS は公共交通再生の旗手たり得るか」，日本交通学会第 81 回研究報告会，北海道大学
◎成川康男	学会発表	成川康男（2022）我が国における数学不安研究について　数学教育学会　秋季例会　北海道大学

整理番号　2022-13

研究課題　生産組織の選択をめぐる労使関係と経済史

研究業績の概要・成果発表等

「生産組織の選択をめぐる労使関係と経済史」のテーマの下に、研究員、協力員が研究対象としてきた地域（戦前戦後の日本、日本植民地、フランス、イギリスなど）に焦点を当て、またそれぞれの専門領域（日本企業の労働時間規制改革、国際金融、イギリスの労使関係、戦前日本の産業発展など）に即して多面的に研究活動を進め、成果（著書、論文、共著、学会発表）を挙げることができた。その結果、例えば、醸造業など在来的産業（近世以来の産業）部門の近代における成長は、地域的な嗜好や需要者の経済水準に規定された、より限定的でセグメント化された市場を徐々に拡げる形で進展したため、先進産地のような共通の嗜好・水準をもつ均質な市場の拡大に対応した生産組織の機械化・大規模は進まず、一見すると遅れた、規模の小さな生産組織が各地域に量的に拡大するという生産形態が選択されたとの推論も得られた。また論文化はされていないが、戦前日本の鉄鋼業の企業組織をめぐる政策選択が産業構造に及ぼした規定性や、さらに機械工業など他の重工業分野の発展に与えた影響などに関する研究も進められた。

但し、これら個別の成果を取りまとめて、分科会全体としての研究業績として発表することは今後の課題として残されていよう。

（1）論文・著書

研究所員名	業績種別（論文･単著･共著･研究ノート等）	発表論文名・著書名　等
※花井俊介	共著	小杉亮介・花井俊介，第 8 章　青森県三戸郡・矢幅三次郎家の醤油醸造経営，井奥成彦・中西聡編著『醸造業の展開と地方の工業化－近世・近代日本の地域経済－」，2023
☆池尾愛子	書評	池尾愛子，Review of Jeff E. Biddle’s Progress through Regression: The Life Story of the Empirical Cobb-Douglas Production Function. Cambridge and New York, NY: Cambridge University Press, 2021, xii + 334 pp., Erasmus Journal for Philosophy and Economics, Volume 15, Issue 2, pp. 183–188, Winter 2022
☆矢後和彦	共著	Dominique Barjot, Harm Schroeter and Kazuhiko Yago, eds., Theory and Empirical Performance: Economic Paradigm and Performance in the Long Run - (18th to 21st century), SPM, 2022, 26 chapters
◎小杉亮介	論文	小杉亮介，大正時代末・昭和期における三菱商事株式会社名古屋支店の肥料取引－中部地方・伊勢湾地域における『後発』商社の販路開拓－，三菱史料館論集第 24 号，2023
	共著	小杉亮介・花井俊介，第 8 章　青森県三戸郡・矢幅三次郎家の醤油醸造経営，井奥成彦・中西聡編著『醸造業の展開と地方の工業化－近世・近代日本の地域経済－」，2023
◎高橋弘幸	単著	当年度報告実績はありません。ライフワークとして取り組み中の単著『小池和男の経済学』及び『働く人々が学ぶ仕事の経済学』が執筆継続中。
◎安元　稔	共著	安元稔, ヨーロッパにおける人口･家族史研究（英語圏）, 日本人口学会研究企画委員会（編）, p.233-244, 2022
◎柳澤　遊	論文	柳沢遊，書評・加藤聖文著『海外引揚の研究』，大原社会問題研究所雑誌 772 号，p81-85
	論文	柳沢遊，波形昭一先生追悼・第 1 期；植民地金融政策史研究の時代，日本植民地研究，p16-20

（２）学会発表		
研究所員名	業績種別	発表タイトル・発表者名　等
☆池尾愛子	学会発表	池尾愛子（2022）「英語で書く日本経済思想史」，2022 年度日本経済思想史学会全国大会（第 33 回），5 月 14-15 日，オンライン開催
	学会発表	池尾愛子（2022）「貝原益軒，石田梅岩，二宮尊徳の経済思想――『家計』と『心術』『心学』」日本経済思想史学会東京例会，12 月 10 日，青山学院大学
☆矢後和彦	学会発表	Kazuhiko Yago, “The Original Landscape of Technology Transfer and Aid: OECD and Japan (1961-1980) ”, session PA009, XIXth World Economic History Congress, Paris, July 25th 2022.
	学会発表	Kazuhiko Yago, “Who Said Japan Was “Number Two”? Multilateral Discourses on Japanese Balance of Payments (1961-1979) ”, session PA075, XIXth World Economic History Congress, Paris, July 28th 2022.
	学会発表	Kazuhiko Yago, “To what extent is the Central Bank responsible for the growth of a country? A view from the Japanese experience”, session PA026, XIXth World Economic History Congress, Paris, July 28th 2022.

２.事業活動

１）運営

(1) 運営委員会

第 1 回　2022 年 4 月 13 日(水)

1) 2022 年度研究員人事の件
2) 2022 年度事業計画書・予算書（案）の件
3) 2022 年度分科会研究費配分（案）の件

第 2 回　2022 年 5 月 25 日(水)

1) 研究員人事の件
2) 2021 年度事業実績報告書・決算書（案）の件
3) 所長候補者選挙・運営委員選挙の件
4) 受託研究の件

第 3 回　2022 年 6 月 22 日(水)

1) 助手任期延長の件
2) 研究員人事の件

第 4 回　2022 年 7 月 13 日(水)

1) 産研フォーラムの件
2) 研究員人事の件

臨時　　2022 年 7 月 25 日(月)

1) 副所長嘱任の件
2) 研究員人事の件

第 5 回　2022 年 10 月 12 日(水)

1) 各種委員嘱任の件
2) 研究員人事の件
3) 受託研究の件
4) 共同研究の件

第 6 回　2022 年 11 月 9 日(水)

1) 共同研究の件

第 7 回　2022 年 12 月 14 日(水)

1) 研究員人事の件
2) 産研ランチタイムセミナー開催の件

第 8 回　2023 年 1 月 18 日(水)

1) 2023 年 9 月採用助手募集の件
2) 研究員人事の件
3) 共同研究の件
4) 2023 年度研究分科会募集・継続の件
5) 2022 年度研究業績評価の件
6) 産研ジャーナルランクリスト改訂の件

第 9 回　2023 年 3 月 8 日(水)

1) 研究員人事の件
2) 助手学外兼職の件
3) 共同研究の件
4) 産研アカデミックフォーラムの件

２）研究活動

（1）研究分科会の設置

2022 年度は 13 分科会を設置し、研究会等を随時開催した。

研究会（19 回）

日　場所	講　師	テーマ
4 月 15 日（金） （ハイフレックス）	青山　知仁 氏 早稲田大学商学学術院 講師	Sequential Subjective Learning
4 月 28 日（木） （ハイフレックス）	王　　涛 氏 京都大学経済学部 准教授	Sustainability in Strategy Research
5 月 13 日（金） （ハイフレックス）	永島　　優 氏 早稲田大学高等研究所 講師	Abortion Legalisation and Adolescent Consequences among Females in the Developing World
5 月 18 日（水） （ハイフレックス）	David Gomulya 氏 Associate Professor, Lee Kong Chian School of Business, Singapore Management University	With Great Expectations Comes Greater Responsibility: CSR, Financial Misconduct, and CEO Dismissal
5 月 27 日（金） （ハイフレックス）	赤星　　立 氏 南山大学経済学部 講師	Characterization of the family of counter domination solutions in decision making under multiple criteria
6 月 1 日（水） （ハイフレックス）	Ha Nguyen 氏 Ph.D. Candidate, University of Vaasa, Finland	Cultural Friction in Foreign Divestment Decisions
6 月 10 日（金） （ハイフレックス）	富　　蓉 氏 早稲田大学商学学術院 講師	In Utero Exposure to Radiation Fear and Birth Outcomes: Evidence from Fukushima Nuclear Power Plant Accident
6 月 24 日（金） （ハイフレックス）	YING YAO 氏 アジア成長研究所 上級研究員	Restricting the Availability of Cigarettes Reduces Smoking
7 月 20 日（水） （ハイフレックス）	三品　和広 氏 神戸大学大学院経営学研究科　教授	The Theory of the Growth of the Firm Reconsidered
7 月 29 日（金） （ハイフレックス）	Yichen (Joshua) Shen 氏 神奈川県立保健福祉大学 ヘルスイノベーション研究科　助教	Does College Education Make Us Act Healthier? Evidence from a Japanese Superstition
9 月 22 日（木） （対面）	①河股　久司 氏 早稲田大学商学学術院 講師 ②Soonho Kwon 氏 早稲田大学商学学術院 助手	若手研究者養成セミナー 研究のポジショニングを考える ①研究を整理することの意義：研究のポジションを明確にする ②論文を読むことの意義：優れた研究とは？
11 月 11 日（金） （対面）	Matthias Kipping 氏 Professor, Schulich School of Business	How the management consultants became so ubiquitous and powerful
12 月 7 日（水） （対面）	Yoo Jung Ha 氏 Lecturer, Sheffield University Management School	The pursuit of multiple goals and resource deployment patterns in a stigmatized business: The case of the nuclear sector
12 月 16 日（金） （ハイフレックス）	相場　大樹 氏 早稲田大学商学学術院 講師	Acquisition of Microfinance Institutions by Commercial Investors: Examining Impacts on Lending Behavior
1 月 18 日（水） （ハイフレックス）	Shubin Wu 氏 Senior Lecturer, University of Liverpool Management School	Real option theory and Japanese manufacturing firms' internationalization : The role of uncertainty
1 月 20 日（金） （ハイフレックス）	潘　　健民 氏 國立政治大學　副教授	Client Firm Disclosure Quality and Auditor Reputation

2 月 15 日（水） （対面）	Ming D. Leung 氏 Associate Professor, Paul Merage School of Business, University of California, Irvine	Moving Up by Moving Around？ The Impact of Career Distinctiveness on Organizational Advancement and Inequality
3 月 3 日（金） （ハイフレックス）	Samuel Mortimer 氏 Intesa Sanpaolo Research Fellow, Saïd Business School, University of Oxford	On valuing what is irreplaceable
3 月 31 日（金） （ハイフレックス）	山口翔太郎 氏 PhD Candidate, Robert H. Smith School of Business, University of Maryland	Individual Mobility and Firm Reallocation: Scientists and Engineers during Japan's Industrialization

（2）産研講演会の開催

産研講演会（31 回）

日	講　師	テーマ
4 月 18 日（月） （オンライン開催）	Jed DeVaro 氏 The Wang Family Professor, College of Business and Economics, California State University, East Bay, USA	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar ：The Role of Risk in Executive Tournaments: Theory and Evidence ＊英語でのご報告
5 月 2 日（月） （オンライン開催）	小笠原欣幸 氏 東京外国語大学 大学院総合国際学研究院 教授	米中対立時代における台湾－2021 年体制の形成
5 月 23 日（月） （オンライン開催）	浅野　康司 氏 東北大学 経済学研究科 講師	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar ：Managing Financial Expertise
5 月 30 日（月） （オンライン開催）	竹井　郁夫 氏 Assistant Professor, Finance, Asia School of Business, Malaysia	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar ：Bank CEO Compensation to Enhance Stability
6 月 6 日（月） （ハイフレックス開催）	外川　　拓 氏 上智大学 経済学部 経営学科 准教授	研究成果の国際発信に向けて－消費者行動研究の視点から
6 月 13 日（月） （オンライン開催）	山田　和郎 氏 立命館大学 経営学部 准教授	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar ：日本企業の現金保有
6 月 16 日（木） （オンライン開催）	阿古　智子 氏 東京大学大学院 総合文化研究科 教授	中国の国家安全と民主主義をめぐる葛藤
6 月 20 日（月） （ハイフレックス開催）	青柳　　潤 氏 Assistant Professor, Department of Finance, The Hong Kong University of Science and Technology, Hong Kong	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar ：Coexisting Exchange Platforms: Limit Order Books and Automated Market Makers ＊英語でのご報告
6 月 23 日（木） （オンライン開催）	府川　信幸 氏 Associate professor of marketing at Missouri University of Science and Technology	Creating Customer Value with Robots
7 月 4 日（月） （ハイフレックス開催）	片桐　　満 氏 法政大学 経営学部 准教授	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar ：Bank of Japan's ETF Purchase Program and Equity Risk Premium:A CAPM Interpretation

7 月 6 日（水） （ハイフレックス開催）	好川　　透 氏 Singapore Managment Univetsity 教授	An Arc of Neoliberalism: Boards' Responses to Explicitization of Governance in Europe ＊日本語でのご報告
7 月 11 日（月） （オンライン開催）	Lewen Guo 氏 PhD Student, Finance, University of Memphis, USA	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar ：An investigation of market invariance for the Tokyo Stock Exchange
7 月 18 日（月） （ハイフレックス開催）	Gael Imad'eddine 氏 Associate Professor, School of Management, University of Lille, France	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar ：Internal Governance of Firms by Promotion-Based Incentives:Empirical Evidence from Mergers and Acquisitions
9 月 29 日（木） （対面開催）	Aric Rindfleisch 氏 Professor of Marketing University of Illinois	How to develop good research idea
10 月 3 日（月） （ハイフレックス開催）	宮川　大介 氏 一橋大学 経営管理研究科 准教授	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar ：Pricing Implications of Market Reforms in an OTC Derivative Market: Evidences from IRS Transaction-Level Data
10 月 10 日（月） （ハイフレックス開催）	清水　良樹 氏 Assistant Professor, Department of Accounting and Finance, University of Minnesota Duluth, USA	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar ：Crime Measures and Housing Prices: An Analysis Using Quantile Regression and Spatial Autocorrelation
10 月 15 日（土） （対面開催）	岩本　桂一 氏 外務省アジア大洋州局審議官（太平洋島嶼国地域担当大使）	日中関係の構造変化と展望（50 年の変遷）
10 月 15 日（土） （対面開催）	Don Capener 氏 Dean of Continuing Education Utah Valley University	How innovation is driving industrial strategy in the USA
10 月 17 日（月） （オンライン開催）	辻本　祐介 氏 Ph.D. Candidate, Alberta School of Business, University of Alberta, Canada	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar ：Coarse Pricing and Competition in QE Auctions ＊英語でのご報告
11 月 14 日（月） （ハイフレックス開催）	Julian Franks 氏 Professor, Finance, London Business School, UK Marco Becht 氏 Professor, Finance, Université Libre de Bruxelles, Belgium	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar ：Resolving financial distress where property rights are not clearly defined: the case of China
11 月 17 日（木） （対面開催）	Sun Young Hwang 氏 Vice President, The Korean Statistical Society, Sookmyung Women's University, Korea	Regression Analysis and Time Series ：Diverse Topics
11 月 21 日（月） （ハイフレックス開催）	William Ming Yan Cheung 氏 早稲田大学 経営管理研究科 准教授	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar ：Are female leaders more resilient to climate change risks? Evidence from greenfield investment
11 月 28 日（月） （オンライン開催）	齋藤　卓爾 氏 慶應義塾大学 経営管理研究科 准教授	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar ：企業統治改革と政策保有株の売却：その決定要因と経済的帰結

12 月 5 日（月） （オンライン開催）	Charles Martineau 氏 Assistant Professor, Department of Management, University of Toronto, Canada	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar ：Noisy FOMC Returns
12 月 19 日（月） （ハイフレックス開催）	Lewen Guo 氏 PhD Student, Finance, University of Memphis, USA	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar ：Market fragmentation and price impact
12 月 26 日（月） （ハイフレックス開催）	Vikas Mehrotra 氏 Professor, School of Business,University of Alberta, Canada	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar ：The Demand and Voluntary Supply of Climate Disclosure
1 月 16 日（月） （対面開催）	W. JEAN KWON 氏 Professor, St. John's University, New York, USA	Current Issues on the Global Risk Management and Insurance
1 月 20 日（金） （ハイフレックス開催）	①久保　克行 氏 早稲田大学 商学学術院 教授 ②山野井順一 氏 早稲田大学 商学学術院 准教授	①「新型コロナウイルスと企業の行動・業績」 ②「中小企業の買収のパフォーマンスとその決定要因：定量的分析」
1 月 23 日（月） （ハイフレックス開催）	堀　　敬一 氏 関西学院大学 経済学部 教授	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar ：A Theory of SPACs
1 月 30 日（月） （対面開催）	Jean-Bapteste Meilhan 氏 グルノーブル・アルプス大学，准教授	Concordance invariants of knotted surfaces via 'cut-diagrams'
3 月 4 日（土） （ハイフレックス開催）	Gilles-Maurice de Schryver 氏 Research professor of African Linguistics at Ghent University and extraordinary professor at the University of Pretoria	The future of lexicography: Extrapolating from five decades of trends

（3）第 45 回 産研フォーラムの開催

「G ゼロ時代の中国ビジネス――日中国交正常化 50 周年記念」

（外務省　日中国交正常化 50 周年認定事業）

日時・場所	プログラム	講演者・テーマ
2022 年 12 月 12 日(月) 大隈記念講堂 ※総合司会 尹　　景春 （早稲田大学商学学術院教授）	開会の辞	中出　　哲(早稲田大学産業経営研究所長)
	来賓挨拶	岩本　桂一 氏(外務省アジア大洋州局審議官) 「日中国交正常化 50 周年に寄せて」
	問題提起	小川　利康(早稲田大学商学学術院教授)
	アカデミック ※ファシリテーター： 中村みどり （早稲田大学商学学術院教授）	江田　憲治 氏(京都大学名誉教授) 「百年ののち、いま何が問題なのか？--中国共産党史の立場から」
		長堀　祐造 氏(慶應義塾大学名誉教授) 「毛沢東の個人崇拝と魯迅」

	メディア ※ファシリテーター： 小川　利康 （早稲田大学商学学術院教授）	中澤　克二 氏（日本経済新聞編集委員兼論説委員） 「習近平長期政権の課題と対外関係」
		西山　明宏 氏（朝日新聞中国総局記者） 「ゼロコロナの自縄自縛　中国経済の現場から報告」
	ビジネス＆リサーチ ※ファシリテーター： 田代　祐基 （マルハニチロ株式会社海外ユニット海外戦略販売部　海外事業二課　副部長役）	水田　賢治 氏（日本貿易振興機構上海事務所所長） 「中国ビジネスの現状と今後の課題」
		池添　洋一 氏（伊藤忠（中国）集団董事長、中国日本商会会長） 「次世代の日中関係発展のために--中国ビジネス 30 年の経験から」
	総括	小川　利康（早稲田大学商学学術院教授）
	閉会の辞	横山　将義（早稲田大学商学学術院長）

（4）産研ランチタイムセミナーの開催

産業経営研究所の研究者間における対面による交流の場の提供、および研究領域を横断した情報交換を目的として、2023 年 2 月より月 1 回程度の開催を開始した。対象は産研所属研究員、商学学術院の助手、博士課程の学生とし、研究の潮流、外国における研究の状況、在外研究における知見、出版した図書の紹介等をテーマとしている。

日	講　師	テーマ
2 月 8 日（水） （ハイフレックス開催）	中出　哲 早稲田大学商学学術院 教授・ 産業経営研究所 所長	保険制度を横軸と縦軸から見る意義
3 月 22 日（水） （対面開催）	久保　克行 早稲田大学商学学術院 教授	日本の経営者とトップマネジメントチーム

（5）受託共同研究

機関名：株式会社東京商工リサーチ（TSR）
研究者：久保　克行 教授
「長期的関係はどの程度縮小しているか：企業間の取引構造と雇用関係」
期　間：2021 年 1 月 1 日～2024 年 3 月 31 日

機関名：株式会社東京商工リサーチ（TSR）
研究者：山野井　順一 准教授
「地方公共団体の産業政策による企業行動・パフォーマンスへの影響：定量分析」
期　間：2021 年 1 月 1 日～2024 年 3 月 31 日

機関名：株式会社東京商工リサーチ（TSR）
研究者：山野井　順一 准教授
「グリーン調達の促進要因と政策効果の定量的検証：グリーン調達実態調査結果を元にして」
期　間：2021 年 7 月 1 日～2024 年 3 月 31 日

機関名：株式会社東京商工リサーチ(TSR)
研究者：久保　克行 教授
「新型コロナウイルス対策支援策導入の決定要因とその効果」
期　間：2021 年 9 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

機関名：株式会社東京商工リサーチ(TSR)
研究者：山野井　順一 准教授
「日本の産業動態の研究：マルチレベル・アプローチ」
期　間：2021 年 9 月 1 日～2024 年 3 月 31 日

機関名：株式会社東京商工リサーチ(TSR)
研究者：山野井　順一 准教授
「非上場企業における企業組織の再編ならびに合併・買収の決定要因とパフォーマンスへのインプリケーション」
期　間：2021 年 9 月 1 日～2024 年 3 月 31 日

機関名：インクグロウ株式会社
研究者：久保　克行 教授・山野井　順一 准教授
「中小企業（未上場会社）における第三者承継（M&A）に関する総合的な研究」
期　間：2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

機関名：株式会社早稲田大学アカデミックソリューション
研究者：井上　達彦 教授
「NEDO プロジェクトにおけるスタートアップ企業のアウトカム指標の調査」
期　間：2022 年 4 月 22 日～2023 年 3 月 10 日

機関名：オープンワーク株式会社
研究者：梁取　美夫 教授
「社員クチコミ情報と企業の財務情報との関係に関する研究」
期　間：2022 年 10 月 1 日～2023 年 10 月 1 日

機関名：公益社団法人関西経済連合会
研究者：広田　真一 教授
「マルチステークホルダー型モデルの企業評価に関する研究業務」
期　間：2022 年 9 月 1 日～2023 年 8 月 31 日

機関名：株式会社東京商工リサーチ(TSR)
研究者：山野井　順一 准教授
「取引関係構造が企業間の生産性格差に与える影響の追究」
期　間：2022 年 10 月 13 日～2023 年 9 月 30 日

機関名：公益社団法人会社役員育成機構
研究者：山野井　順一 准教授
「コーポレート・ガバナンスとその関連要因を用いた企業業績と株主総利回りの予測」
期　間：2022 年 11 月 1 日～2023 年 4 月 30 日

(6) 研究成果の刊行

1) 『産業経営』

第 54 号を発行した。

2) 『第 45 回産研フォーラム』報告書

産研アカデミックフォーラムの内容をおさめ、報告書として作成を進めた。

(7) 産業経営研究所アーリーキャリア研究支援制度

2020 年度より、産業経営研究所アーリーキャリア研究支援制度（以下「本制度」という。）を実施した。本制度は若手研究員の国内外での研究活動を支援することを目的とした助成制度である。本制度により、国内外での研究を目的とした活動（学会、国際会議、国際コンソーシアム参加、シンポジウムでの参加・発表）に伴う旅費・交通費・参加費、研究に関連する書籍（電子ジャーナルを含む）購入費を支援する。

2022 年度は、助成金額を 50,000 円へ増額したが、新型コロナウイルス対策のため出張が制限されたこともあり、申請者数は 2021 年度の 5 名から 10 名への増加に留まった。

2023 年度は助成金額をさらに 80,000 円へと増額し、さらなる周知を図り、研究活動を促進する予定である。

3）教育活動

(1) 受託研修

2022 年度は実施しなかった。

(2) ビジネスプランコンテスト

前年度に引き続き 2022 年度も、従来の一般募集に加え、商学部設置科目の株式会社日本 M&A 寄附講座「起業家養成講座Ⅰ」と連携し、同科目履修者からもビジネスプランを募集した。審査員は、起業家養成講座Ⅰ履修者からの応募約 163 件と一般募集の約 88 件のビジネスプランすべてに目を通し、厳正な審査・選考を行い、ファイナリスト計 6 組のビジネスプランを選出し、2022 年 7 月 19 日にプレゼンテーションを大隈記念講堂にて開催した（約 300 名の聴講参加）。

４）図書・資料の収集

外国雑誌の継続購入を優先し、統計書、社史、団体史、各種 CD-ROM 等を収集した。

2022 年度　産業経営研究所　図書・資料収集状況

内 訳		購入	寄贈	合計
図　書　［冊］	統計書	129	12	141
	社 史	0	10	10
	その他	45	1	46
	［ 合 計 ］	174	23	197
雑 誌・和　［種類数］		0	0	0
雑 誌・洋　［種類数］		21	0	21
CD-ROM/DVD　［種類数］		4	2	6
E-BOOK・和［タイトル数］		7	0	7
E-BOOK・洋［タイトル数］		6	0	6
DB［種類数］		7	0	7

５）主要業務

下記業務を分担した。

【所長】研究所総括、管理、運営

2022 年 4 月 1 日～2022 年 9 月 20 日　　高瀬　浩一

2022 年 9 月 21 日～2023 年 3 月 31 日　　中出　　哲

【副所長】研究所運営のための企画、立案、研究成果の刊行、図書・資料整備

2022 年 4 月 1 日～2022 年 9 月 20 日　　村瀬　俊朗

2022 年 9 月 21 日～2023 年 3 月 31 日　　三橋　　平

【産業経営編集委員長】『産業経営』の編集統括

2022 年 4 月 1 日～2022 年 9 月 20 日　　中出　　哲

2022 年 9 月 21 日～2023 年 3 月 31 日　　矢後　和彦

【事務長】研究所事務責任者

2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日　　松尾　克也

【担当調査役】

2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日　　藤原　浩明

以上

３．役職者・運営委員・助手

2022.4.1～2022.9.20

所　　長　　高瀬　浩一
副 所 長　　村瀬　俊朗

運営委員

秋葉　賢一	嶋村　和恵	長谷川惠一	山野井順一
井上　達彦	清水　　孝	花井　俊介	横田　一彦
小川　利康	鈴木　孝則	広田　真一	横山　将義
奥村　雅史	高瀬　浩一	藤田　　誠	
片山　　東	谷川　寧彦	村瀬　俊朗	
川村　義則	中出　　哲	森田　　彰	
安原　　晃	中村　信男	八重倉　孝	

助手

鳥田　友起　　（任期 2018.9.1～2023.8.31）
高坂　啓介　　（任期 2019.9.1～2023.8.31）
金　　鑫　　（任期 2020.9.1～2023.8.31）

2022.9.21～2023.3.31

所　　長　　中出　　哲
副 所 長　　三橋　　平

運営委員

秋葉　賢一	鈴木　孝則	藤田　　誠	安原　　晃
小川　利康	高瀬　浩一	三橋　　平	山野井順一
奥村　雅史	中出　　哲	村瀬　俊朗	横田　一彦
片岡　孝夫	中村　信男	目時　壮浩	横山　将義
久保　克行	長谷川惠一	森田　　彰	
嶋村　和恵	花井　俊介	八重倉　孝	
清水　　孝	広田　真一	矢後　和彦	

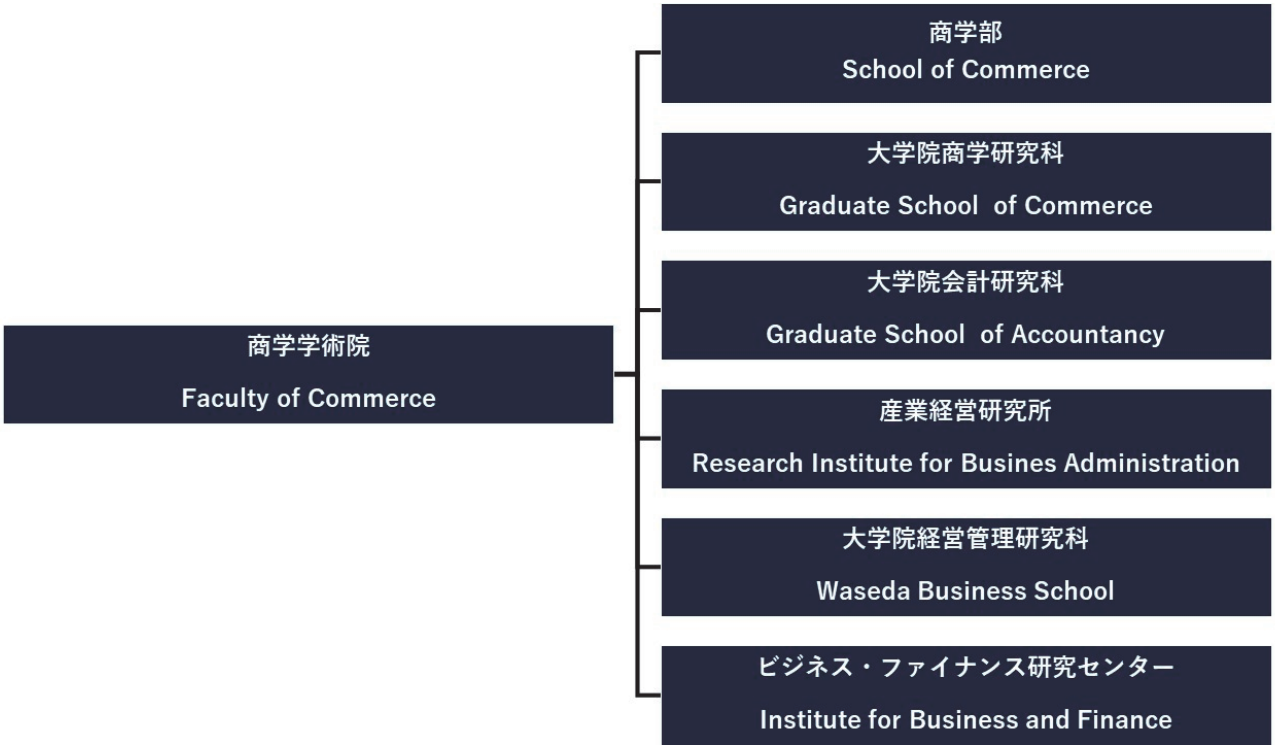
助手

鳥田　友起　　（任期 2018.9.1～2023.8.31）
高坂　啓介　　（任期 2019.9.1～2023.8.31）
金　　鑫　　（任期 2020.9.1～2023.8.31）

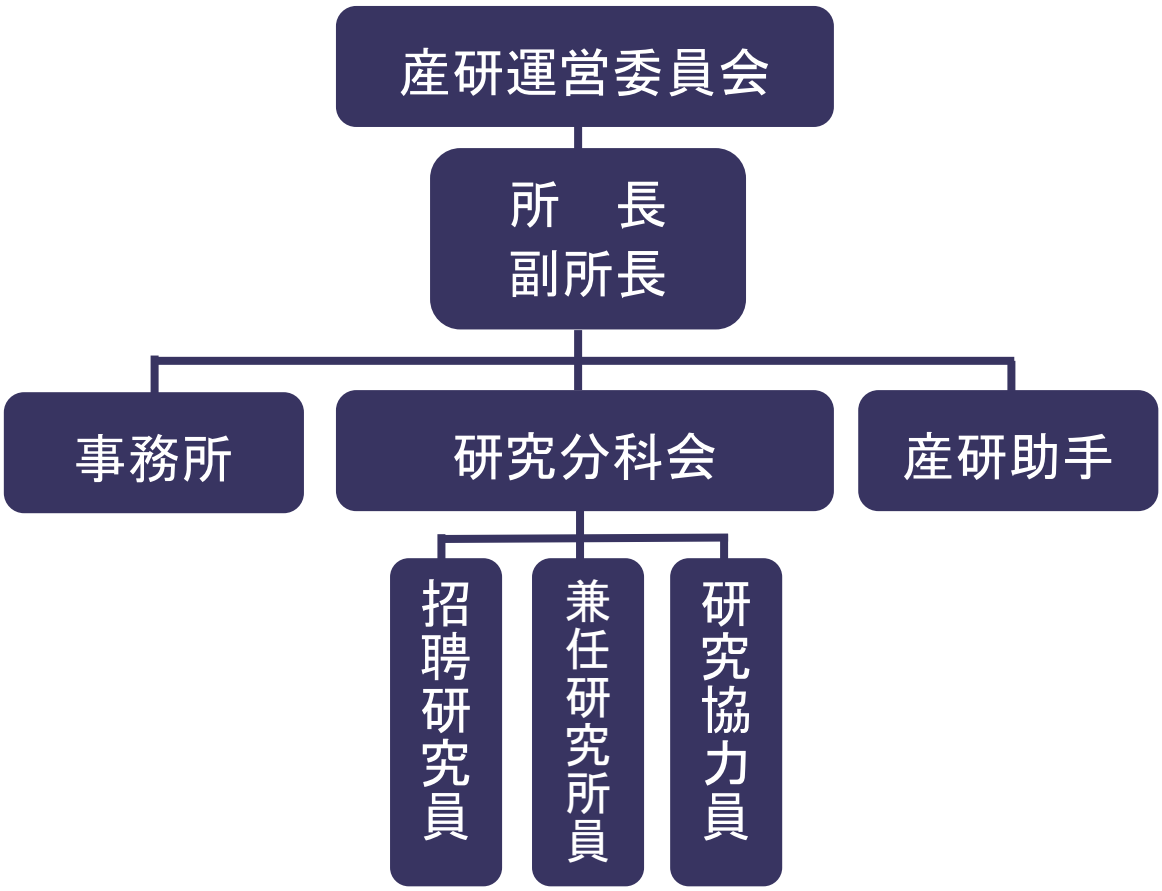
４．商学学術院・産業経営研究所構成図

商学学術院構成図

（2022.8.1～）



産業経営研究所構成図



運営委員会	商学学術院を本属とする専任教員のうち商学部主担当および会計研究科主担当ならびに、商学研究科商学専攻主担当の兼任研究所員のうち役職者、研究分科会主任者、互選委員によって構成される研究所の意思決定機関。
兼任研究所員	本大学の商学部、会計研究科、商学研究科商学専攻の専任教員、特任教授、任期付き教員および研究分科会参加者である他学術院の専任教員。
招聘研究員	事業計画の実施上必要と認められるときに、研究分科会の代表者の推薦に基づき、研究・調査に協力する者。
研究協力員	大学院修士課程修了者またはこれと同等以上の者で、研究分科会・リサーチ・プロジェクトの代表者の推薦に基づき、研究・調査に協力する者。

５.『産業経営』投稿規程・執筆要領

『産業経営』投稿規程

2015年3月4日改訂

1. 【投稿原稿の内容】

(1) 投稿原稿は、産業経営に関する問題をテーマとした研究とする。
(2) 投稿原稿は、未公刊であり、かつ、他誌で査読中のものであってはならない。
(3) 投稿原稿に使用する言語は、日本語または英語とする。

2. 【投稿原稿の種類】

(1) 投稿原稿は、研究論文または研究ノートとする。
(2) 投稿時に論文として申請したものであっても、編集委員会が委嘱した審査員の審査に基づき、研究ノートとすることを掲載条件とする場合がある。

3. 【投稿料】

投稿料は、無料とする。

4. 【原稿の投稿】

(1) 投稿者は、投稿締切日までに、原則として、所定のファイル形式によって保存した原稿を指定されたメールアドレスに送付するものとする。
(2) 投稿の締切日は、原則として、1月末日および7月20日とし、年２回審査を実施する。

5. 【掲載決定論文の原稿データの送付】

(1) 編集委員会が委嘱した審査員の審査に基づき、投稿原稿の掲載が決定した場合、編集委員会より、投稿者にその旨を通知する。
(2) 上記(1)の通知を受けた者は、審査員または編集委員会が指摘した事項を加筆・修正のうえ、所定の期日までに、原則として、所定のファイル形式によって保存した原稿を指定されたメールアドレスに送付するものとする。

6. 【掲載決定論文の校正】

(1) 掲載決定論文の執筆者校正は、原則として、初校のみとする。
(2) 1月末日締切の論文および7月20日締切の論文の校正は、各々原則として6月および12月までに完了予定とする。

7. 【刊行】

(1) 「産業経営」は毎年１回６月に刊行し、原則として前年7月20日締切分および当年1月末日締切分のうちの掲載決定論文を掲載する。
(2) 掲載決定論文は、校正が完了し次第、早稲田大学産業経営研究所のウェブサイトにおいて「産業経営」の掲載予定号を明記して公開する。

8.【抜刷等の送付】

(1) 当研究所および編集委員会は、投稿者に原稿料を支払わないが、『産業経営』刊行後、冊子本体5部および抜刷30部を無料で送付する。
(2) 掲載原稿および抜刷には、投稿受付日および採択決定日を記載する。

9.【著作権】

(1) 掲載論文の著作権は、当研究所に帰属するものとする。
(2) 『産業経営』刊行後、著者は掲載論文を複製・転載の形で利用することができる。ただし、その場合、著者はその旨を当研究所所長宛に書面で通知し、複製・転載先には初出を明記しなければならない。

10.【その他】

投稿締切日、投稿規程、執筆要領等を改訂した場合は、これらを早稲田大学産業経営研究所のウェブサイト上にて公開するものとし、原則として、投稿者に個別に通知は行わない。

【投稿先および問い合わせ先】

早稲田大学産業経営研究所『産業経営』編集委員会
〒169-8050　東京都新宿区西早稲田1-6-1
TEL：03-3203-9857
FAX：03-3202-4274
E-mail：businessreview@list.waseda.jp
URL：https://www.waseda.jp/fcom/riba

『産業経営』執筆要領

2015年3月4日改正

1. 【使用言語】

(1) 使用言語は、日本語または英語とする。

(2) 投稿者の母語以外の言語を使用する場合は、投稿前にネイティヴチェックを受けるものとする（下記3.【投稿者等に関する記載】(2)の要旨を含む)。

2. 【書式】

(1) 原稿は、原則として、Microsoft Wordにより作成するものとする（手書原稿は受理しない)。

(2) 原稿は、A4版用紙に横書きで作成するものとする。

(3) 原稿は、1ページあたり43字×32行（刷り上がりの本文の字数および行数）で作成することが望ましい。

(4) 原稿の本文、注、参考文献のフォントは10.5ポイント以上とする（査読のため)。

(5) 現行の図表のレイアウトは、原則として、下表の通りとする。

区分	フォント	サイズ	配置等
図表見出し	ゴシック体(太字)	8ポイント	中央揃え（図表の上につける）
図表内の文字･データ	明朝体	8ポイント	執筆者指定
図表単位等	明朝体	7ポイント	執筆者指定
図表下注・出所	明朝体	7ポイント	右寄せ

※節・項の区切りおよび図表の前後には１行ずつスペースを入れること。

※ただし、図表の書式は、誌面構成を考慮して、編集委員会が変更する場合がある。

(6) 原稿は、原則として、下記3.【投稿者等に関する記載】を除き、論文の場合は54,000字以内、研究ノートの場合は14,000字以内に本文、図表、注および参考文献を収めるものとする。なお、図表については、(図表に要する行数）×43字を当該図表の文字数とみなす。

3. 【投稿者等に関する記載】

(1) 投稿原稿には、次の内容を記載した表紙をつけるものとする。

(a) 主題（タイトル）および副題（サブタイトル）

(b) 論文または研究ノートの別

(c) 著者全員の氏名および所属

(d) 投稿者（著者が単数の場合は当該著者。著者が複数の場合は代表者として申請された者。以下同じ）の氏名、連絡先（郵便番号、住所、電話番号、メールアドレス）

(2) 表紙の次のページには、次の内容を記載するものとする。

(a) 主題（タイトル）および副題（サブタイトル）(日本語)

(b) 著者全員の氏名（日本語)

(c) 要旨（日本語。800字以内)

(d) キーワード（日本語。5-10個)

(e) 主題（タイトル）および副題（サブタイトル）(英語)

(f) 著者全員の氏名（英語)

(g) 要旨（英語。250語以内)

(h) キーワード（英語。5-10個)

4. 【節・項のナンバリング】

節・項のナンバリングは、次の要領で行うものとする（ローマ数字の使用および数字のない節・項を設けてはならない）。

```
1.　＊＊＊＊
2.　＊＊＊＊
  2.1.　＊＊＊＊
    2.1.1.　＊＊＊＊
    2.1.2.　＊＊＊＊
  2.2.　＊＊＊＊
3.　＊＊＊＊
```

5. 【日本語論文の文章表記】

(1) 日本語論文では、原則として、新仮名遣い、新字体を使用するものとする。

(2) 日本語論文では、原則として、当用漢字を中心とし、難しい漢字の使用は避けるものとする。

(3) 日本語論文では、句点（。）および読点（、）を併用するものとし、原則として、ピリオド（.）およびカンマ（,）は使用しない。

(4) 日本語論文では、傍点は該当する文字の上に打つものとする。

6. 【日本語論文の数字の表記】

(1) 日本語論文では、原則として、算用数字を使用するものとし、漢数字の使用は熟語、成句および固有名詞の場合にのみ認める。

(2) 上記(1)にかかわらず、概数を表記する場合は、漢数字を使用するものとする（例：数十日、何千人）。

(3) 上記(1)にかかわらず、桁数が大きくなる場合には、必要に応じて単位語（例：兆、億、万）を用いることも認めるが、この場合は、位取りのカンマを使用しない（例：「7万6000人」または「76,000人」は可。「7万6,000人」は不可）。

7. 【数式等の表記】

(1) 変数は、イタリック（斜体）で表示するものとする（例：x、y、z）。

(2) ベクトルは、ゴシック体かつ太字で表示するものとする（例：$\mathbf{A}$、$\mathbf{B}$、$\mathbf{C}$）。

8. 【図表】

(1) 図表を挿入する場合、図表の上に図表番号およびタイトルを付けるものとする。なお、図表番号は、投稿論文全体の通し番号とし、節ごとに振り直してはならない（例：「図表10」は可。「図表1.3」は不可）。

(2) 図表は、原稿の適切な箇所に配置しておくことが望ましい。また、図表を本文と別のページに一括して作成する場合には、刷り上がりを考慮して挿入箇所を明記しなければならない。

(3) 他の文献の図表を参照する場合は、図表の下に出所を明記するものとする。なお、出所の記載方法は、原則として、下記9.【注・参考文献】に準拠するものとする。また、この場合、当該図表についての著作権に関する問題は、著者の責任において、原稿の投稿前に処理しておくものとする。

9. 【注・参考文献】

(1) 本文中で引用箇所を表示する必要がある場合、引用文献の著者名、発表年および引用ページ（省略可）を記載するものとする（例：大隈（1992：74））。

(2) 引用箇所は、本文中で表示するものとする。

(a) 引用箇所は、両括弧によって表示するものとする。

(b) 括弧内には、引用文献の著者名（名字のみ）、発行年（西暦）および引用ページ（省略可）を次の要領で記載するものとする。

例：	① 引用文献が単数の場合	（大隈_1994：36）
	② 引用文献が複数の場合	（大隈_1997：52；高田_1999：13）

※下線（_）は半角スペース

(c) 同一著者が同一年に複数の文献を公表している場合は、発行年の後にa、b、…のアルファベットを付して、本文中および文末の参考文献において区別するものとする。

例：＜本文中＞ （大隈_1998b：20）
＜文末：参考文献＞ 大隈重信（1998a）「＊＊＊＊＊」……
大隈重信（1998b）「※※※」……

(3) 内容注は、本文末にまとめて表示するものとする。

(a) 内容注の番号は、該当箇所の右肩に両括弧によって表示するものとする（例：…である(1)）。

(b) 内容注のなかに引用箇所を表示する必要がある場合には、上記(1)に準拠して表示するものとする。

(4) 参考文献は、内容注の次に、著者氏名のアルファベット順に表示するものとする。

(a) 参考文献が単行本の場合、原則として、参考文献の著者名（個人の場合はフルネーム、団体の場合は省略名称不可）、発行年（西暦。両括弧で囲う）、書名（副題を含む。和書、韓国語文献または中国語文献の場合は二重カギ括弧で囲い、欧文文献の場合はイタリック（斜体）とする）、版数（必要な場合）、発行地（東京の場合は省略可）および発行所を次の要領で記載するものとする。

例：① 参考文献が和文献、韓国語文献または中国語文献の場合
武井寿（1997）.『解釈的マーケティング研究』第3版_東京：白桃書房.
② 参考文献が欧文文献の場合
Sunder, S. (1997). *Theory of Accounting and Control*. South-Western College Publishing.
③ 参考文献が欧文文献で、日本語訳が存在する場合
Littleton, A. C. (1933). *Accounting Evolution To 1900*. New York: American Institute Publishing Press.（片野一郎訳（1978）『リトルトン会計発達史（増補版）』東京：同文舘出版）.

※なお、原著出版年の後には原則として「.」（ピリオド）を打つものとするが、これに代えて「,」を用いてもかまわない。

(b) 参考文献が論文の場合、原則として、参考文献の著者名（個人の場合はフルネーム、団体の場合は省略名称不可）、発行年（西暦。両括弧で囲う）、論文名（副題を含む。和書、韓国語文献または中国語文献の場合はカギ括弧で囲う）、収録書物の著者名もしくは編者名および収録書物名（和書または中国語文献の場合は二重カギ括弧で囲い、欧文文献の場合はイタリック（斜体）とする）、または、収録学術雑誌名、巻号数ならびに該当論文の開始ページおよび終了ページを次の要領で記載するものとする。

例：① 参考文献が和文献、韓国語文献または中国語文献で、所収論文の場合
奥村雅史（2001）.「クロスボーダーM&Aと国際化戦略」薄井彰編著『バリュー経営のM&A投資』東京：中央経済社：113-134.
② 参考文献が和文献、韓国語文献または中国語文献で、雑誌論文の場合
辻山栄子（2003）.「業績報告をめぐる国際的動向と会計研究の課題」『会計』163(2)：223-240.
③ 参考文献が欧文文献で、所収論文の場合
Ikeo, A.（2000）. Economists and Economic Policies. in Ikeo, A. ed. *Japanese Economics and Economists since 1945*. London：Routledge：143-184.
④ 参考文献が欧文文献で、雑誌論文の場合
Sasaki, H. and Toda, M.(1996). Two-Sided Matching Problems with Externalities. *Journal of Economic Theory*. 70(1)：93-108.

(c) 参考文献が新聞または一般雑誌の記事である場合は、次のように表示するものとする。
① 署名記事の場合：学術文献と同様に表示するものとする。
② 無署名、匿名記事の場合：本文中に新聞または一般雑誌のタイトル、発行日付および号数（必要な場合）を可能な限り表示するものとする。

(d) 上記(c)にかかわらず、新聞または一般雑誌の記事を引用した場合は、学術文献のリストの後に、新聞または一般雑誌のタイトル、発行日付および号数（必要な場合）を表示するものとする。

(e) 参考文献がインターネット上の記事である場合には、学術文献と同様に、管理機関名、記事のタイトル（必要な場合）を表示し、また当該ファイルが存在するページのURLを括弧書きで表示するものとする（例：法務省法制審議会会社法（現代化）部会. 2005. 『第32回会議議事録』（http://www.moj.go.jp/SHINGI/041208-1.html））。また、学術文献および新聞または一般雑誌のリストの後に、管理機関名のホームページのURLを表示するものとする（例：法務省ウェブサイト（http://www.moj.go.jp/））。

以上

第45回産研フォーラム　聴講無料

Gゼロ時代の中国ビジネス
―日中国交正常化50周年記念―

日　時：2022年12月12日（月）　9:20～17:10

会　場：早稲田大学　大隈記念講堂　（対面300名まで）
※オンライン聴講可

■開催趣旨

本年は日中国交正常化50周年にあたる。この間、中国社会は滄桑の変ともいうべき大きな変貌を遂げた。2021年現在、中国のGDPは、日本の３倍を越え、米国の経済規模に迫る勢いをみせている。中国の急速な経済成長により、私たちは「パクス・アメリカーナ」（米国による平和）の終焉と「Gゼロ」時代の到来を予感せざるをえない。私たちは衆知を結集し、日本が今後歩むべき道筋を探らねばならない。

1989年11月のベルリンの壁崩壊以来、30年余りの間、私たちは米国を中心とする自由主義経済のグローバル化のもとで豊かさを享受してきた。同年に起きた天安門事件で中国に対する経済制裁を行ったものの、2001年にはWTO加盟も果たした中国が自由主義経済の枠組みのなかで発展してゆくことを疑わなかった。

だが、10年来、中国は経済的実力を背景に東・南シナ海への海洋進出を着々と進め、東アジアにおけるパワーバランスを大きく変えようとしている。習近平政権が強力に推進する一帯一路構想は、中国によるグローバル経済戦略であり、東アジアだけでなく、中央アジアを経由してヨーロッパへと勢力を浸透させる戦略でもある。ロシアによるウクライナ侵攻を契機として経済のブロック化はますます鮮明になったが、中国からカザフスタン、ロシアを経由して東欧を抜けてドイツまで届く中欧班列（CHINA-EUROPE Rail）ルートは経済ブロックの新たな胎動を示している。

如上の認識に立脚し、日本はどのように中国でビジネスを展開して行くべきかについてビジネス、メディア、アカデミックの各界からご報告いただき、日本の進むべき道を考える機会としたい。

※外務省　日中国交正常化50周年認定事業

対　　象：学生、教職員、一般どなたでも聴講いただけます。聴講無料。
申 込 方 法：対面聴講ご希望の方は対面聴講QRコード、オンライン聴講ご希望の方はZoom聴講QRコードからそれぞれお申込みください。
早稲田大学産業経営研究所HP（https://www.waseda.jp/fcom/riba/）からもお申込みができます。
演題、タイムテーブル等は同HPに掲載しております。
申込み締切：2022年12月5日（月）※定員に達し次第締切らせていただきます。

対面聴講

ZOOM聴講

問い合わせ先：早稲田大学産業経営研究所　〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1 早稲田キャンパス11号館3F
TEL:03-3203-9857　E-mail:riba@list.waseda.jp

第45回産研フォーラム

Gゼロ時代の中国ビジネス
―日中国交正常化50周年記念―

日　　時：2022年12月12日（月）　9：20～17：10

会　　場：早稲田大学　大隈記念講堂

総合司会：尹　　景春（早稲田大学教授）

■ 開会式：9：20～10：00

1．開会の辞　　中出　　哲（早稲田大学産業経営研究所長）

2．来賓挨拶　「日中国交正常化50周年に寄せて」

岩本　桂一（外務省アジア大洋州局審議官）

3．問題提起　　小川　利康（早稲田大学教授）

■ アカデミック：10：00～11：50（ファシリテーター：中村みどり 早稲田大学教授）

1．「百年ののち、いま何が問題なのか？ ―中国共産党史の立場から―」

江田　憲治（京都大学名誉教授）

2．「毛沢東の個人崇拝と魯迅」

長堀　祐造（慶應義塾大学名誉教授）

■ メディア：13：00～14：50（ファシリテーター：小川　利康 早稲田大学教授）

1．「習近平長期政権の課題と対外関係」

中澤　克二（日本経済新聞編集委員兼論説委員）

2．「ゼロコロナの自縄自縛　中国経済の現場から報告」

西山　明宏（朝日新聞中国総局記者：オンライン参加）

■ ビジネス＆リサーチ：15：00～16：50

（ファシリテーター：マルハニチロ㈱海外ユニット海外戦略販売部海外事業二課副部長役 田代　祐基）

1．「中国ビジネスの現状と今後の課題」

水田　賢治（日本貿易振興機構上海事務所所長：オンライン参加）

2．「次世代の日中関係発展のために―中国ビジネス30年の経験から」

池添　洋一（伊藤忠（中国）集団董事長、中国日本商会会長）

■ 閉会式：16：50～17：10

1．総　　括　　小川　利康（早稲田大学教授）

2．閉会の辞　　横山　将義（早稲田大学商学学術院長）

※外務省　日中国交正常化50周年認定事業

早稲田大学 産業経営研究所 所報 No.62

2023 年 6 月 1 日発行

発行者　早稲田大学 産業経営研究所所長　中出　哲
発行所　早稲田大学 産業経営研究所
〒169-8050　東京都新宿区西早稲田 1-6-1
電話(03)3203-9857
FAX(03)3203-4247
E-mail riba@list.waseda.jp
URL https://www.waseda.jp/fcom/riba/